

平成 26 年度

研究紀要

(通巻第 32 号)



川越市教育委員会

あいさつ

川越市教育委員会教育長

伊藤 明

川越市教育委員会では、今年度の「情報教育推進委員会」、「学力向上研究委員会」、「小学校外国語活動研究委員会」の3つの研究委員会の研究成果を「研究紀要第32号」として刊行いたしました。本市学校教育の充実発展のため、調査・研究に御協力くださいました各委員会の委員長である校長先生をはじめ、委員の先生方の御尽力に感謝申し上げます。

さて、昨今の学校教育を取り巻く環境は益々厳しい状況にあります。こうした中、川越市教育委員会では、第三次川越市総合計画後期基本計画及び教育基本法第17条第2項に基づいて策定された、川越市教育振興基本計画「生きる力と学びを育む川越市の教育」の実現に向け、教育センターを中心に経験や職能に応じた研修を実施し、教職員の資質の向上に努めております。来年度、基本計画はまとめの年となりますが、今後も「次代を担いたくましく生きる児童生徒の育成」に向け、諸施策の充実に取り組みでまいりたいと考えております。

本冊子は、各研究委員会の調査・研究、授業実践の成果と課題をまとめたものです。本市の実態を調査・分析・考察して得られた、指導方法の工夫・改善を図るための取組や、学校・家庭・地域がさらに連携を深めていくための方策などを掲載いたしました。

各学校におきましては、自校の学校課題に適切に対応し、特色ある学校の創造を目指し、次代を担う子どもたちの「生きる力」の育成に鋭意努力をしていただいているところでございますが、今後これらの研究成果を積極的に活用し、日々の教育活動の充実・改善に役立てていただくことを御期待申し上げます。あいさつといたします。

情報教育推進委員会

I 研究の概要

1 目的

全市立小・中学校における情報教育の一層の推進を目指し、児童生徒の学力の向上や情報活用能力の育成を図ることを目的とし、教育の情報化についての現在の課題解決に向けた実践研究を行う。

2 研究テーマ

「授業におけるICT機器の効果的な活用について」

～ICT機器（タブレット型端末を含む）の効果的な活用場面についての研究～

3 研究方針

教職員の授業での積極的な活用を図るため、授業研究を通して効果的な活用について考察するとともに、今後のICT機器の導入を見据えた、授業での活用場面について認識を深め、今後の授業に役立てる。

4 研究の経過

川越市情報教育の現状と課題について、ICT機器（デジタル教科書、電子黒板、プロジェクタ）の活用促進が図られているところである。さらに川越市では、新たなICT機器の導入を推進する上で、施設設備の整備や機器本体の導入を検討している。その一つとして、タブレット型端末がある。これを効果的に活用することで、「個々の能力や特性に応じた学び」「児童生徒同士が教え合い学び合う協同的な学び」が可能となる。また、画像や動画を活用した分かりやすい授業を展開することにより、興味関心を高め、学習意欲の向上が期待できる。さらに、電子黒板等を用いて発表や話し合いを行うことにより、児童生徒の思考力や表現力の向上も期待できる。現在、大東中学校、新宿小学校の2校にタブレット型端末があり、これら2校では、主にカメラ機能による撮影や資料（教材）配付の手段として活用している。

そこで、今年度の研究として、今後の情報教育の動向を見据え、新たなICT機器（タブレット型端末）を活用した授業研究を行った。学習ツールの一つとして効果的に活用できる学習場面や、わかりやすい授業を展開することにより、児童生徒の興味関心を高め、学習意欲や思考力、表現力の向上に役立つものであることを研究した。なお、授業研究会は、タブレット型端末を所有している川越市立新宿小学校で実施した。

5 研究実績

期日場所	主な内容
平成26年7月16日(水) 川越市立教育センター	依頼書交付、川越市情報教育の現状と課題 今年度の研究方針、今後の予定（授業研究、授業者等）
平成26年12月2日(火) 川越市立教育センター	授業研究会の検討（授業研究、授業者、役割分担） 今後の予定
平成27年2月4日(水) 川越市立新宿小学校	学年：第6学年 教科：社会科 単元：「世界の中の日本」 授業者：河上 彬 教諭 指導者：川越市立特別支援学校 関根康弘 校長

II 研究の内容

1 「授業研究会 研究協議会」

川越市立新宿小学校

(1) 授業者のこれまでの取組と本時の振り返り

○タブレット型端末の導入及び活用

・平成26年7月に導入し、同年9月より本格的に利用を開始した。

・タブレット型端末は、必要な場面で使うようにしている。また、児童の操作スキルを上げるためには、いろいろな場面で使用する必要がある。

- ・情報の共有がしやすく、児童同士の画面を並べプロジェクトタタに映すことができる。
- ・タブレット型端末を、授業で活用することとで学習意欲が高まり学力の底上げができた。

(2) 質疑応答

① 児童の利用についての利点や留意点についてどのようなことが上げられるか。

- ・本体が軽く、持ち運びが便利で低学年の児童でも使いやすい。
- ・キーボードが無く、動作が遅い。
- ・著作権や肖像権など、情報モラル教育について指導を行った。

② どのような学習場面で活用しているか。また、他教科での活用はどうか。

- ・社会科では主に資料の配付の場面で活用している。
- ・パワーポイントを使って教材を作成しているため、画像を拡大することができない。
- ・他教科においては、国語科では調べ学習で使っている。(必要なページを写真で撮り、教室に持ち帰って使用している。)体育科では、マット運動の時に動画を再生し、自分の演技を見ながら活用することができた。また、図画工作科では、街の様子などを写真にし、構図を考えさせたり、実際の様子を再現させたりするために活用した。



③ タブレット型端末の環境（機能等）について、どのようなものがあるか。

・入力方法については、ローマ字入力をするように指示や指導はしていない。直接書き込むことについては良くできている。

・転送機能がある。少しずつ取り組むようにしている。

・インターネットが利用できる環境にはなっていない。教室内にアクセスポイントを置いてデータのやりとりを行っている。

④ どのような方法で校内（教員）に周知を図ったか。

・夏季休業中にスマートフォンやタブレット型端末（家庭で使用する際）の指導について、研修時間を設けた。

・放課後、月1回程度の研修や、ミニ研修会を開き、短時間でも操作方法などについて教員同士で聴き合える場を設けた。



(3) 研究協議（グループ）

① 本時の授業について

- ・授業に集中して取り組んでいた。
- ・児童の考えをすぐに共有できた。
- ・隣同士で話し合いながら操作していた。（操作がわかりやすい。）
- ・持ち運びなど楽にできていた。
- ・教材の配付、収集が早くできていた。

② タブレット型端末の使い方について、今日の授業の他にどのような使い方ができるか。また、効果はどうか。

・国語科では、漢字の書き順などに使用している。

・理科では、振り子を使った学習において使用できる。

・体育科でフォームの確認に使用できる。

・体育の授業中にウェブカメラを利用することで、自分自身の様子を確認することができる。（ウェブカメラ→時間設定をすることで数秒後に再生をすることができる。）



- ・技術・家庭科では、写真や動画などを見せる使い方をしている。
- ・道徳の授業の導入で、資料の提示や映像を流すなどに使用している。
- ・効果として、児童自身の書いたものがアップされる（映し出される）と思考が深まる。
- ・学校としては環境が整っていない部分もある。現在、画像や動画などを使った活用に限られる。



③ 今後の課題

- ・環境の整備が必要。（無線LAN）
- ・電子黒板の使用が低いので、研修を重ね活用していく必要がある。
- ・授業で使えるアプリケーションを探し、増やしていく必要がある。
- ・モラル教育などの指導が必要である。（著作権に関する教師側の研修）



(4) 指導・講評

川越市立特別支援学校

関根 康弘 校長

○社会科の目標を達成するためにタブレット型端末が効果的に使えたかどうかが大仕事である。タブレット型端末の利点は次のような点が上げられる。

- ・手元で資料が見られる。
- ・自分で書き込みができる。
- ・児童の反応をすぐに見られ、児童生徒の考えを手元で把握することができる。
- ・様々な使い方ができる。
- ・視覚に訴えることができる。（資料を拡大すること。動画で動きを確認すること。）
- ・インターネットに接続できる。
- ・大型テレビ（モニタ）への外部出力が可能である。
- ・写真や動画が簡単に撮れ、すぐに再生ができる。
- ・操作がしやすい。（拡大など）



- ・いろいろなアプリケーションがある。
- ・コンパクトで、持ち運びがしやすい。
- ・オールインワン（1台で全てのことができる。）
- ・情報の共有や資料の配付が容易にできる時間の短縮につながる。
- ・児童生徒同士のコミュニケーションが取りやすい。



<タブレット型端末を使う上での留意点>

- ・目的を達成するための道具として使用する。
- ・情報量が多いので教師が考えて使用する。
- ・機器について、教師が熟知しておく必要がある。
- ・鉛筆などの筆記用具を使って書く活動も大切である。
- ・一部の教員だけでなく全教員が使用できることが大切である。
- ・情報教育を担当する若しくは推進する教師が研修し、伝達していくことも大切である。

2 まとめ

[成果]

- タブレット型端末を意図的に指導計画に取り入れることにより、個々の能力や特性に応じた学習や児童同士が教え合い学び合う協同的な学習場面の設定が容易になり、興味関心が高まり学習意欲の向上につながることがわかった。
- タブレット型端末をツールとして活用することで、タブレット型端末に直接記入した文字や図形を素早くクラス内で共有でき、画像を見ながら発表を聴くことで児童の思考が深まることがわかった。
- タブレット型端末を活用した授業研究では、タブレット型端末の可能性を知り、実践活用できる機器として認識を深めることができた。
- タブレット型端末自体が軽く、持ち運びが容易で、機器の起動も速いのでノートパソコンに比べると活用の幅が広がることがわかった。
- 現在使用しているICT機器について、積極的に活用していきたいとの意見なども出され、現在学校で使用しているICT機器の活用について、振り返る良い機会となった。

[課題]

- タブレット型端末の活用にあたっては、活用場面や活用時間など児童生徒の実態に応じて使用するとともに、教材研究は基より教材や資料の精選を行いながら、他のICT機器も合わせて活用していく必要がある。
- 校内LANなど環境の整備に努め、児童生徒の学習の幅を広げていく必要がある。
- ICT機器の活用については、一部の教員だけでなく全教員が使用できることが大切である。

第6学年3組 社会科学習指導案

日時 平成27年2月4日(水) 第5校時
場所 6年3組教室
児童数 38人(男子19人 女子19人)
授業者 河上 彬

1 小単元名 日本とつながりの深い国々

2 小単元について

(1) 児童観

本学級の児童は外国語活動において、AETの先生と交流をしたり、クラスの中の外国籍の児童の話をしたりと、外国について触れる機会が多い。しかし、テレビなどの知識のみで外国についての知識に偏りがあり、我が国とのつながりまで意識している児童は少ない。また家庭学習等で進んで外国の時事に触れる児童がいる一方、興味のない児童もいて、意欲の二極化がみられる。

(2) 教材観

本小単元では学習指導要領の内容(3)のA「我が国と経済や文化などの面でのつながりが深い国の人々の生活の様子」を扱う。我が国とつながりの深い国々の人々の様子を調べることと、グローバル化が進む社会で外国の人々とともに生きていくためには、異なる文化や習慣を理解し合い、共生していくことを理解させるためにも、大切に扱いたい単元である。

(3) 指導観

児童が主体的に外国の文化を理解し表現する手段として意見文を書かせる。そのために、自分で課題を解決したり、自分の意見を書いたりできるよう、「つかむ」段階において見通しを持つよう計画を立てる。その計画をもとに「調べる」では気付いたこと・疑問に思ったことを明確にして調べ学習を行う。「まとめる」「生かす」の段階では、自分の調べた考えを基に、今後外国の国とのつながり方についての意見文を書かせる。意見文を書かせた後、文章を見合う場面を作り、意見の交流をしていく。交流した考え方をもとに、我が国と異なる文化や習慣を理解させるとともに、国際社会の一員としての自覚を持って共生していくことを考えさせていきたい。

(4) 本校の情報教育における取組

本校ではパナソニック教育財団の助成を受け、平成26年よりタブレット端末(以下タブレット)が導入された。ペア学習やグループ学習での使用を通して、子供達に達成感や自己有用感を感じさせられるのではないかとという仮説を基に検証している。以下、タブレットを含めた本校での情報教育の取り組みを箇条書きで記す。

- ・年度初めの情報機器(プロジェクタ、実物投影機等)の使用法やパソコン(メール・共有の使用法)の研修
- ・パナソニック教育財団の助成式
- ・タブレットを使うための情報モラル授業の公開(安心・安全なタブレットの使い方)
- ・タブレットが使用しやすい環境整備
(持ち運び方法、充電、置き場所、使用予約表、起動の仕方・画像表示のマニュアル等)

- ・夏期研修でのタブレット・実物投影機・プロジェクタの使用についての研修
- ・タブレットの各学年での実践
- ・保護者・地域への授業公開（タブレット）
- ・川越市教育研究会でのレポート発表
- ・コンピュータ室の掲示物等の整備

今回の情報教育推進員の研究授業においては社会科を取り上げる。そのため、社会科の授業にタブレットを取り入れると、以下のような利点が考えられる。

- ①導入の段階において児童の意欲を高めることができる。
 - ②ペーパーで使用する姿勢、二人でより良い考えを出そうとする姿勢を養うことができる。
 - ③タブレットで考えた内容を、すぐにクラス全体で共有することができる。
 - ④それぞれの考えをクラス全体で比較して考えることができる。
 - ⑤調べ学習において資料を写真に収めることができ、時間の短縮につながる。
- これらの利点を考慮した上で、本小単元ではタブレットを学習に取り入れる際、学習に意欲的に取り組めるようにしたり、我が国と外国との違いをタブレットに表示された画像で比較したり、気づいたこと・疑問点を書き込んで考えたりできるようにする。全体で発表することで、経済や文化、習慣の違いにかんするそれぞれの違いを理解させる。
- そしてグループ学習を取り入れ、一人一人に役割を持たせることで、意欲や意識の向上を図り、集団の中での自己有用感を感じさせたい。

3 小単元の目標と評価規準

(1) 小単元の目標

我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活の様子から学習問題を見出し、基礎的資料を活用して調べ、異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であることを考え、意見文として適切に表現する。

(2) 小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・ 態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
我が国と経済や文化の面につながりが深い国々の人々の生活の様子に関心をもち、関連する資料を収集して意欲的に調べようとしている。	我が国と経済や文化などの面につながりが深い国の人々の生活の様子について、学習問題や予想、学習計画を考え表現するとともに、文化や習慣を比較することを通じて、それぞれに大切にしている文化や習慣があり、外国の人々と共に生きていくためには異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であることを理解している。	我が国と経済や文化などの面につながりが深い国の人々の生活の様子について、各種資料を活用して必要な情報を集め、特色のある文化や習慣、我が国とのつながりなどを読み取り、意見文などにまとめていく。	我が国と経済や文化などの面につながりが深い国の人々の生活の様子、それぞれの国に大切にしている文化や習慣があること、外国の人々とともに生きていくためには異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であることを理解している。

4 指導計画（8時間扱い）

	本時の問い ○おもな学習活動	評価の規準	★ICT機器の活用 ・利点
つかむ	①日本とつながりの深い国々を探そう ○外国から入ってきた身の回りのものや文化を出し合い、日本とつながりの深い国について話合う。 ○その国の人々の生活の様子を調べる計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・関心・意欲・態度 ・思考・判断・表現 	★タブレットの活用（導入時） 「文化の違い」 ・関心・意欲が高まる。 ★コンピュータの活用（展開時） 「日本と関係するもの」 ・知識が得られ、計画のきっかけになる。
学習問題 今後の世界の国とのつながり方について、意見文を書こう。			
調べる	②③④⑤日本とつながりの深い国々について考えよう ○アメリカと日本 ・日本との食文化の様子を比較して、気付いたことを話合う。 食器 食べ物 マナー・様子 ・各視点の内容を調べ、まとめる。 学校の様子 生活（家庭、食事） 文化 農業、工業 ○中国と日本 ・日本との食文化の様子を比較して、気付いたことを話合う。 食器 食べ物 マナー・様子 ・各視点の内容を調べ、まとめる。 学校の様子 生活（家庭、食事） 文化 農業、工業 ○韓国と日本（本時） ・食文化の様子を見て、気付いたことを話合う。 食器 食べ物	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・理解 ・思考・判断・表現 	★タブレットの活用 「文化の比較」 ・関心・意欲が高まる。 ・文化の違いを視覚的に捉えられる。 ・ペアで考えを深めることができる。 ・考えをクラスで共有することができる。 ★タブレットの活用 「文化の比較」 ・関心・意欲が高まる。 ・文化の違いを視覚的に捉えられる。 ・ペアで考えを深めることができる。 ・考えをクラスで共有することができる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・知識・理解 ・思考・判断・表現 	★タブレットの活用 「文化の比較」 ・関心・意欲が高まる。 ・文化について視覚的に捉えられる。

<p>まとめ る ・いかす</p>	<p>⑧意見文を作成しよう ○今後の外国とのつながり ・今後の我が国と外国の関係について、意見文を書く。 【意見文の主な観点】 文化や生活習慣の違いについての理解 外国とつながっていくために 国際社会の一員としての自覚</p>	<p>・関心・意欲 ・技能 ・態度</p>	<p>★タブレットの活用 「調べ学習」 ・多くの資料に触れることができる。 ・自分の疑問にあった資料を選択することができる。</p>
<p>マナー・様子 ・各視点の内容を調べ、まとめる。 学校の様子 生活 (家庭、食事) 文化 農業、工業</p> <p>○サウジアラビアと日本 ・食文化の様子を見て、気付いたことを話合う。 食器 食べ物 マナー・様子 ・各視点の内容を調べ、まとめる。 学校の様子 生活 (家庭、食事) 文化 農業、工業</p>	<p>・知識・理解 ・思考・判断・表現</p>	<p>★タブレットの活用 「文化の比較」 ・関心・意欲が高まる。 ・文化について視覚的に捉えられる。 ・ペアで考えを深めることができる。 ・考えをクラスで共有することができる。</p>	
<p>※毎時間同じ形で使用することで、以下の利点が期待できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動作になれ、素早く取り組むことができる。 ・前回の内容・観点等を生かして考えることができる。 ・努力を要する児童（読み取りが難しい）でも主体的に取り組めるようになる。 			
<p>⑥⑦日本とつながりの深い国々について調べよう ○AETの先生に話を伺ったり、集めた資料を活用したりして、自分の疑問について調べる。 ・人口 ・町の様子 ・学校の様子 ・食文化 ・農業・工業 ・文化・芸能 ・歴史</p>	<p>・知識・理解 ・思考・判断・表現 ・技能</p>	<p>★タブレットの活用 「調べ学習」 ・簡単に記録に残せる。 ・調べ学習の時間短縮につながる。 ★パソコンの活用 「調べ学習」 ・多くの資料に触れることができる。 ・自分の疑問にあった資料を選択することができる。</p>	

5 本時の学習と指導 (本時 4/8)


(1) 目標

韓国の人々の生活の様子について、資料を活用して読み取り、調べる内容をまとめる。

(2) 評価規準

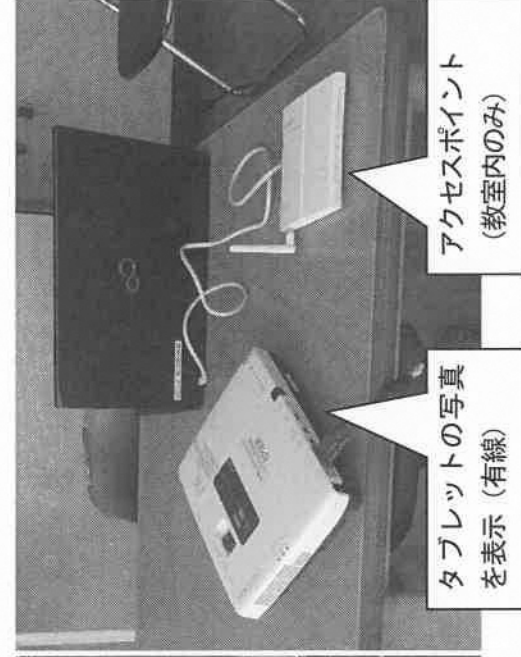
- ・韓国の生活の様子や結びつきについて、資料を活用して読み取り、まとめている。(思考・判断・表現)

(3) 展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点 (○指導◆児童への手立て□評価)	資料・準備	時間
1 単元の内容を確認する。	○単元の見直しを行う。	○意見文を書くことの確認をする。	・ノート	1
2 本時の学習課題を確認する。	○学習課題の確認 韓国の様子について、気付いたことや疑問点をまとめよう。			2
3 韓国の食事の様子を見て、気付いたことを話合う。	○写真からの読み取り (個人→ペア) ・食器 (鉄の箸、形) ・食べ物 (キムチ、米) ・マナー (口をつけない、食器を持たない) ・服装 (民族衣装)	○使用に際してのルールや準備・片付けの仕方を再確認する。 ・「自分のもの」ではなく「学校のもの」であることの確認 ・何かあったらまずは先生に連絡 ○食事の違いだけでなく文化等も比較しながら触れさせていく。 ○日本との相違点・類似点だけでなく、前時のアメリカや中国を通して疑問点を考えさせ、次の活動につなげる。	・タブレット ・パソコン ・プロジェクタ ・ワークシート	17
<p>タブレットの使用方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二人で一台及び担任で一台の計20台を使用 (8.0型 Android4.2 La VieTab) ・画像をタブレットに表示させ、ペアで気付いたこと、疑問に思ったことを記入 (WinBird 「E ボード」をパソコン及びタブレットにインストール済み) ・全体で気付いたことの発表・比較・共有 (1台のみの表示、2台で並べて表示等) ・疑問に思ったことをノートに記入させる。(タブレットのみに頼らず、記録に残したり整理したりするため) 				
				

<p>4 各視点の 内容を調べ、 まとめる。</p>	<p>○資料の読み取り、疑問点の整理 ・学校の様子 ・生活 ・文化 ・人の交流</p>	<p>○タブレットの写真も資料として活用するため、タブレットは机の上に置かせておく。 【十分満足できる児童への発展的な内容】 ◆韓国の様子について疑問点が生ずるに浮かぶ児童には、日本や他国との関連を考えさせる。 ◆今後の調べ学習のために、調べの際のキーワードに赤線を引きかせる。 【努力を要する児童への手立て】 ◆資料から気付いたこと、日本の違いだけでも書けるようにする。 ◆読み取りができない児童には、同じグループの写しをさせ、自分の責任を果たせるようにする。 ☒韓国の人々の生活の様子や結びつきについて、資料を活用して読み取り、まとめている。 <ワークシート> ○もっと調べたい事や意見の要旨になることに着目させて書かせる。</p>	<p>・教科書 ・資料集 ・ワークシート</p> <p>20</p>
<p>○自分の考えの記入</p>	<p>○自分の考えの記入</p>	<p>ワークシート</p> <p>5</p>	<p>ワークシート</p>

6 ICT機器のセットイングの様子



今後の世界の国とのつながり方について、意見文を書こう。

「と日本」

名前

学習課題

の様子について、気付いたことや疑問点をまとめよう。

調べに必要な言葉に
赤線を引いておこう。

なぜ違うの？
どうして同じなの？
他の国との違いは？

答え

生活 (衣食住)			
学校			
文化 (歴史・行事・ 宗教・芸能など)			
人の交流 (観光・経済・ 農業・工業など)			

自分の考えを書こう

- 初めて知ったこと
 - もっと調べたいこと
 - 意見文のテーマにしたいこと
- を書きましよう。

学力向上研究委員会

I 研究の概要

1 目的

川越市学力向上研究委員会は、次の事項についての検討を基に、川越市立小・中学校の児童生徒の学力向上を図ることを目的とする。

- (1) 児童生徒の学力の向上に係る方策に関する事項
- (2) 学力調査等による児童生徒の学力分析及び指導方法の工夫改善に関する事項

2 研究の内容

【学力分析と指導の手立て12】

川越市立小中学校の児童生徒を対象に実施した教研式標準学力検査（NRT）、川越市中学生学力調査の結果を基に、川越市全体の学力の状況を分析・考察し、課題解決を図るための手立て及び指導資料を示す。

○教研式標準学力検査（NRT）

小学校の国語、社会、算数、理科の4部会、中学校の国語、社会、数学、理科、英語の5部会が、検査結果を分析し、川越市全体の課題を明らかにする。

○川越市中学生学力調査

中学校の国語、社会、数学、理科、英語の5部会が、調査結果を分析し、川越市全体の義務教育の学習内容の定着状況を把握するとともに、学習上の問題点や指導上の改善点を明らかにする。

【小江戸川越寺子屋タイムズ】

各教科等における川越市全体の児童生徒の課題を踏まえ、教員が「児童生徒の思考力・判断力・表現力を育むこと」の指導の一助となるスタンダードを示す。

【川越市児童生徒学習・生活状況調査】

川越市全体の児童生徒の学習・生活について、川越市の実態に即した研究を行い、学力向上に向けた教育活動を活性化させ、知・徳・体のバランスのとれた成長に資する統計資料を作成する。

3 研究実績

期 日	場 所	主 な 内 容
平成 26 年 5 月 7 日 (水)	教育センター	・ 委嘱書交付 (小・中学校部会) ・ 部会ごとの研究の方向性の決定
平成 26 年 8 月 27 日 (水)	教育センター	・ 委嘱書交付 (学級経営部会) ・ 講演会 (講師 埼玉大学教授 清水 誠氏) ・ 部会ごとの協議

※上記の全体会とは別日にて、各部会ごとの協議を実施した。

II 各教科の取組

【国語科（小学校）】

- 1 国語科における本市の傾向
 - (1) N R T の偏差値からみた傾向
 - ・平成26年度、第4学年は50.8、第5学年が51.1と平均値の50をわずかに上回っている。
 - ・平成21年度からの推移をみると、第4学年、第5学年ともに、偏差値は下降傾向にある。
 - (2) 正答率にみる全国との比較

① 第4学年

- ・大領域別では「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が、全国平均を2.6ポイント下回っている。
- ・中領域では「文学的な文章を読むこと」「指示語の理解」「ローマ字を書くこと」が全国平均を下回っている。また、「話題に沿って話し合うこと」、「文の中心やつながりに注意して書くこと」、「説明的な文章を読むこと」、「辞書を活用すること」では、全国平均を上回っているもの、60%以下の正答率となっている。

② 第5学年

- ・大領域ではすべての領域で、全国平均を上回っている。しかし、「書くこと」、「読むこと」が60%以下の正答率である。
- ・中領域では、「目的に応じて話すこと」、「漢字の読み書き」の2領域で全国平均を下回っている。また、「目的に応じて構成を考えて書くこと」、「文の中心やつながりに注意して書くこと」、「説明的な文章を読むこと」、「文学的な文章を読むこと」、「ことわざについて理解すること」では、全国平均を上回っているもの、60%以下の正答率となっている。

2 国語科における課題

(1) ローマ字の読み書き

ローマ字は、3年生で学習するが、使用する機会が少なく、定着が図れていない。促音や拗音などの書き方も含めて繰り返し指導する必要がある。

(2) ことわざの理解

知っていることわざの数が少ない。単元で学習した後に、生活の中で触れる機会を設ける。

(3) 説明的な文章を読むこと

内容を読み取ることや構成を捉えることが、あまりできていない。各学年の指導事項を系統的に身に付けさせていく。

※以上の課題をふまえ、次ページより説明的な文章を読む力を高めるための具体的な指導事例を紹介する。

【低学年】「のりものことをしらべよう」(東京書籍 新編 あたらしいこくご一下)

第1学年及び第2学年「読むこと」における説明的な文章の解釈に関する指導事項
時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。

- (1) 目標を設定する。(身に付けさせせる力を明確にする。)
- (2) 学習活動の設定と教材研究を行う。(言語活動を意識した読み方)
 - ① 目標を達成するための言語活動を設定し、学習の見通しをもつ。
 - ② 「のりもの」に興味を持つ導入づくりをする。
 - ③ 文章のつくりを整理し、ワークシートをつくる。→カード作り(教科書P.44)
 - ④ 「のりものずかん」を作るために、乗り物の本を読ませる準備をする。
- (3) 学習課題に沿って、支援を工夫する。
 - 音読を徹底して行い、説明的な文章の構成や文のリズムを自然に身に付けさせる。



【中学年】「自然のかくし絵」(東京書籍 新編 新しい国語三上)

第3学年及び第4学年「読むこと」における説明的な文章の解釈に関する指導事項
目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。

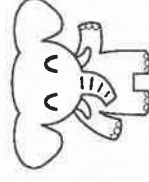
- (1) 目標を設定する。(身に付けさせせる力を明確にする。)
- (2) 学習活動の設定と教材研究を行う。(読み取る方法と表現等を明確にする。)
 - ① 「段落」の意味を理解し、学習の見通しをもつ。
 - ② 形式段落に番号をつけ、いくつかの段落で構成されているかを確認める。
 - ③ それぞれの段落の内容を短い文でまとめる。
 - ④ 説明の順序に気をつけて、文章全体の構成をまとめる。
- (3) 学習課題を設定し、支援を工夫する。(②の③の例)
 - 文章に即した写真を手立てに、段落の内容を捉える。
 - 段落相互の関係を捉え、文章の構成をまとめる。



【高学年】「動物の体と気候」(東京書籍 新編 新しい国語五)

第5学年及び第6学年「読むこと」における説明的な文章の解釈に関する指導事項
目的に応じて、文章の内容を的確に押さええて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかんたんにすること。

- (1) 目標を設定する。(身に付けさせせる力を明確にする。)
- (2) 学習活動の設定と教材研究を行う。(読み取る方法と表現等を明確にする。)
 - ① 「要旨」の意味を理解し、学習の見通しをもつ。
 - ② 段落の中心をまとめる。(第3学年及び第4学年にて既習)
 - ③ 文末表現に着目し、事実と感想、意見との違いに気づく。
 - ④ 段落の中心や接続語等に着目し、文章の構成をまとめる。
 - ⑤ 結論に要旨が書かれていることを理解し、決められた文字数でまとめる。
- (3) 学習課題を設定し、支援を工夫する。(②の③、④の例)
 - 文末表現に着目し、事実と感想、意見との違いに気づく。
 - 段落の中心や接続語等に着目し、文章の構成をまとめる。



【社会科（小学校）】

1 社会科における本市の傾向

(1) 全国と川越市の偏差値の比較より

教研式標準学力検査における平成21年度から26年度までの偏差値をみると、4、5年生は常に全国平均よりやや上の偏差値であることや、この傾向は過去6年間変わっていないことから、本市における3、4年生で学習した社会科の内容は定着しており、学力は十分身に付いていると考えられる。

(2) 全国と川越市の通過率の比較より

教研式標準学力検査における平成26年度の全国通過率と川越市の通過率を比較してみると4、5年生における大領域、中領域共に昨年度より通過率は向上している。また通過率の値も、全国平均と比較してほぼ同程度である。このことから本市における3、4年生で学習した内容は定着しており、社会の学力は身につけていると考えられる。しかし、小問毎に通過率をみてみると、過去3年間、全国平均を下回っているものがある。例えば4年生では、①「調べ学習に必要な道具はカメラである」を選択する小問 ②「昔の道具の使い道で、体を温める道具は火鉢や囲炉裏である」(ランプではない)を選択する小問 ③「道具の発達によるくらしは変化しており、家事にかかわる時間が短縮された」と解答する小問 ④「東西南北の言葉を用いて、A地点からB地点までの道案内を示す小問等である。5年生では、①「森林の働きのひとつに、雨水を一時蓄えた後、少しずつ流す働きがある」と解答する小問 ②「警察の仕事には事故、事件の出動の他にも交通違反の取り締まりや地域の見回りをする仕事がある」と解答する小問 ③「2枚の地図を比較し、「畑から田になった、橋ができた、家が増えた」等の変化を見抜き、どちらの地図が開発前でどちらが開発後であるか、根拠を示し説明する小問 ④等高線を基に土地の高低を見抜き、川の流れる方向を示す小問等である。

(3) 全国と川越市の5段階出現率の比較より

成績のグラフを見ると出現率を表す山形の頂点は右寄りである。例えば、段階2と段階3に相当する児童は全国平均値より少ない一方、段階4に相当する児童はとても多い。このことは、全国平均に比べ学力が高い児童がかなり多い実態を示している。本市の3、4年生の社会科の学力は高い児童が多いといえる。

2 社会科における課題

偏差値、通過率、出現率の比較や経年変化の分析から、①学力の低下傾向が継続状態にあること②児童間に深刻な学力差が存在し、二極化傾向にあること③学年が進むにつれ、この二極化傾向が広がる可能性があることが指摘される。これらの課題を解決するために、方位や地図等に関する知識や能力の定着、活用力を高める指導（資料収集、学習活動の工夫、環境作り等）である手立て1～3を取り入れ授業を活性化したり、全国通過率との開きがある小問の内容に関係する学習について、年間指導計画に印をつけ、授業で意識的に指導したりする必要がある。

3 指導の手立て
 方位や地図等に関する知識や能力の定着、活用力を高める指導のポイント

手立て 子どもたちの生活体験と地図を関連付ける学習活動

- 1 小単元名 学校のまわりの様子
- 2 小単元の目標
 学校のまわりの地域の様子に関心を持ち、土地利用や交通の様子について観察し、絵地図や地図記号・四方位などをを用いた地図にまとめる。また、土地利用や交通の様子について理解し、身近な地域の様子は場所によって違いがあることを考え・判断し、言語などで適切に表現している。

3 小単元の指導計画（13時間扱い）

学習活動・学習内容	手立てとの関連（*留意点）
①学校の近くの様子に関心をもつて調べ、学習問題を設定する	
学習問題 学校のまわりはどのようなのでしょうか。	
②学校の周りの調査計画をたてる ・校区の特色を捉えられるように、いくつかのコースを設定する。	コースにはつきりとした目的物を設定した調査活動 ・子どもたちの生活体験とリンクさせる。 ・地図に調査の流れがはつきりするよう、地図に行く順番の数字などをふり分、子どもたちが調査の流れをはつきり分かるように支援する。 *安全面の視点から保護者にも協力を依頼する。
③学校の周りの地域をテーマに沿って調査する ・調査計画を参考にしながら、何回かに分けて調査を行うようようにさせる。	*安全面の視点から保護者にも協力を依頼する。 現地で分かったことを、地図で対応をさせた調査活動
④調査して分かったことを発表する ・土地利用の様子、交通の様子、土地の高低などを押さえられるようにする。	調査で分かったことから、地域の特色を自分の言葉で表現する学習活動 ・地図の中に調査の際のつぶやきなどを記入する。（付箋の活用）
⑤絵地図にまとめる ・学校のまわりの特色を方位ごとにまとめるようにする。 ⑥地図記号を使った地図を作成する ・地図記号でまとめるよさや四方位を使う意味をとらえさせながら、地図でまとめさせる。	

【算数科】

1 算数科における本市の傾向

(1) N R Tの偏差値からみた傾向

小学校第4・5学年では、ここ6年間において平均値の50を上回っている。今年度は昨年度に比べ、偏差値がそれぞれ0.2ポイント、0.8ポイント低下した。

(2) 正答率、通過率にみる全国との比較

①第4学年(内容第3学年)

- ・領域別にみると、「量と測定」「図形」「数量関係」の各領域は、全国平均を2～3ポイント上回っている。しかし、「数と計算」領域は0.2ポイントの上回りである。
- ・全国通過率よりも下回り、その差が大きい(6ポイント以上)小問は「乗法・2位数×2位数」「数直線・小数や分数」「そろばん・数の表示」「秤の読み」である。特に、「秤の読み」は、全国・川越市ともに通過率20%以下になっている。

②第5学年(内容第4学年)

- ・領域別にみると、「量と測定」領域が全国平均を2.9ポイント、「数と計算」領域は0.6ポイント下回っている。特に「量と測定」領域の中領域にあたる「角」は9.4ポイント全国平均を下回っている。
- ・全国通過率との開きがある小問は「三角定規を用いた角」の2問が20ポイント前後、「四則の混じった計算」が14ポイント、「面積の単位換算」2問、「3直角」「垂直な位置にある直線」「分数の加法減法」が10ポイント前後、「四捨五入」「小数の加法」「ひし形の理解」は全国通過率30%以下(いずれも川越は20%台)の小問である。

2 算数科における課題

(1) 数直線上の読みについての指導

数直線上の小数や分数の読み、秤の読みに課題がある。数直線の指導は、最小目盛りの単位をとらえることを、「数と計算」領域だけでなく「量と測定」領域などでも関連付けて指導することが必要である。

(2) 面積の単位換算についての指導

単位の意味と大きさの関係をとらえることができようにする。指導にあたっては、算数的活動を通し、それぞれの単位に基づく面積の大きさにあつての感覚を豊かにしていけるようにする。

(3) 三角定規の角についての指導

三角定規のそれぞれの角の大きさを正しくとらえられるようにする。その過程では単に答えを出すだけでなく、ICT機器の活用を図るなどして、求め方(方法)を順序立てて説明できるように指導することが大切である。また、間違い例を示し、児童と一緒に考えていくような指導の工夫も考えられる。

3 指導の手立て

(1) 数直線上の読みについての指導

数直線上の読みの指導において、最小目盛りの単位をとらえることを、「数と計算」領域だけでなく、「量と測定」領域でも関連付けていく指導の工夫

分数は、第2学年において単位分数を、分割分数の意味で導入してきた。小数や分数の意味や表し方については、第3学年で学習する。小数は、10進法で大きさを表すことができるが、分数は $\frac{1}{3}$ 、 $\frac{1}{4}$ などのように、単位として、それぞれの大きさを表すことができるとともに、単位分数の幾つ分かで表すことができる。分数の大きささとえらえるようにするためには、図や数直線上に表し、視覚的にとらえて理解できるようにするなどの指導の工夫が考えられる。有効な表現方法として、テープ図で等分していることを視覚的に確認し、その後、数直線と対比させて数として座標軸に表していく。天秤の目盛りの読み取りなど、「量と測定」領域においても関連付け、目盛りの最小に目を向け、1目盛りがわかればどこもわかるといふ指導を展開していく。

(2) 面積の単位換算についての指導

単位正方形の数の求め方を基にした公式を導き理解する指導の工夫

公式を導く指導では、「単位正方形の幾つ分かを数えることから効率的な方法はないか。」と考えられるようにすることから始まる。この時、「縦の個数×横の個数」で全体の個数を求められるという発想は乗法指導時のアレイ図にも関連付けられる。

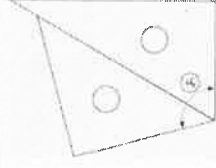
第2学年の乗法九九の指導では、交換法則や分配法則、さらに複合図形（L字型）にながなるアレイ図を数える学習をす。単位面積の正方形を数える場合にも、「一辺×一辺」という言葉での公式指導にとどまらず、アレイ図を数えた方法と関連付けながら、全体の単位正方形の数の求め方として指導をしたい。

(3) 三角定規の角についての指導

間違い例を示し、話し合いを通して三角定規を組み合わせた角の大きさを理解できるようにする指導の工夫

『右の図は、1組の三角じょうぎを組み合わせたものです。②の角の大きさは何度ですか。』という問題に対して、75度という答えが多くありました。

どのようにしてこのような答えが出てきたのか話し合いました。また、正しい答えを言いました。



【指導のポイント】

1組の三角定規を組み合わせて計算で求めることができるが、どうして75度という解答が出てきたのか、その理由を考えることを通して、この問題を解決するために必要なことを子どもたちが気付けるようにする。

【理科（小学校）】

1 NRTの傾向

(1) 偏差値から見た傾向

- ・平成25年度までは第4・5・6学年で実施していたが、平成26年度からは第4・5学年での実施となった。
- ・過去5年間では平均値である偏差値50を中心に-3.0～+1.6の範囲内で推移している。
- ・学年が進むにつれ、偏差値が下がる傾向がある。これは同一年度での学年比較においても、同一学年の追跡比較においても同様の傾向である。

(2) 正答率から見た傾向

- ・第4学年（内容第3学年）で、全国との差が-5ポイント以上の小問は、動物や植物の観察に関する設問が3問、地面の温度に関する設問が1問、光や磁石、電気に関する設問が5問、全53問中計9問であった。
- ・第5学年（内容第4学年）で、全国との差が-10ポイント以上の小問は、動物や植物の観察に関する設問が2問、水蒸気に関する設問が1問、電流に関する設問が4問、空気と水に関する設問が1問、物の加熱と体積に関する設問が1問、全55問中計9問であった。
- ・第4学年で教科書の単元に近い10領域で見ると、全国平均を下回った領域は「こん虫の育ち方や体のつくり」「じしゃくの性質」の2領域であった。
- ・第5学年で教科書の単元に近い10領域で見ると、全国平均を上回った領域は「水の温度による変化」のみで、残りの9領域は全国平均を下回っている。

2 課題

- ・全体的に知識・理解の定着が低い。第4学年では昆虫の卵、昆虫の体の名称、地面の温度の正しいはかり方、磁石の極の性質、第5学年ではテントウムシの越冬、光電池に関する用語、回路図の定着の低さが目立つ。予定調和的に結果をまとめ、子どもにじっくり考えさせない授業を行っているのではないだろうか。教材研究をしつかり行い、まず教員自身が学習内容をしつかり把握する。目標を明確にし、基本を大切にした授業の展開が課題となる。
- ・現在使用している教科書の構成との関連では、教科書に出ている磁石の同極が反発するという実験に、磁石の間に紙を入れるという条件を付け加えている設問の正答率が特に低い。教科書に出ている観察や実験を順番に機械的に行っていないだろうか。学習した内容を一般化し生活と関連付けた活動をする授業の展開が課題となる。
- ・植物や動物の観察など、年間を通した学習の正答率が低い。年間指導計画立案時に、学校として組織的に対応すべき飼育・栽培年間計画等の内容に対して、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」に対応するかまで具体化すべきである。実効性のある年間指導計画立案が課題となる。

3 手立て

導入では、生活に関連した「事物・現象」を提示し、児童の学習意欲を高め、問題を自分のものとして把握させて、学習活動につなげる必要がある。自然体験が少ない子どもは、疑問がうかんできづらいため、まずは、全員に自然事象に触れさせ、そこから疑問や発見を引き出すようにする。

○直接体験（体感）する活動から、問題意識をもたせる導入例

小3 磁石の性質

「かごの中の空きかんを、じしゃくを使ってとりだそう」

形や大きさの違うアルミニウム缶とスチール缶を数個ずつ混ぜてかごに入れ、磁石を使って取り出ししてみる。磁石につく缶とつかない缶があることから、金属でも磁石につく物とつかない物があることを実感させ、身の回りでも磁石につく物とつかない物があるか調べようとすの意欲を高める。

小4 空気と水の性質

「かさ袋ロケットをとばそう」

空気の入ったポリ袋などを押して空気の存在を確認めたり、手ごたえを感じたりすることで、子どもが楽しく空気の存在を実感できる。袋に空気を閉じこめて細長いかさ袋の風船ができる。（袋の口の開いている方から息を入れ膨らませ、開いている口をモールで縛る。）
木製の棒（指でもよい）などで強く押し込む。空気からの反発力を感じたら、袋を支えている方の手を放すとかさ袋ロケットが勢いよく遠くまで飛ぶ。

小5 振り子の運動

「音楽に合わせてふりこを振らせよう」

音楽で使っているメトロノームなどを見せて、ふりこの運動の変化に興味をもたせる。糸やおもりでふりこを作り、速い曲や遅い曲にふりこの動きを合わせる体験をさせる。ふりこの動きを曲に合わせるときに工夫した点を話し合い、ふりこが1往復する時間を変えたいときにはどうすればよいか考えさせる。

○写真やデジタル教材を活用して、問題意識をもたせる導入例

小6 土地のつくりと変化

「地面の下はどうなっているのでしょうか」

これまでの体験をもとに、地中の様子を予想してノートにかかせる活動を行い、大地のつくりについての関心をもたせる。その後、教科書の地層写真やデジタル教材を活用して、大地は小石、砂、粘土などで構成されていること、がけがそのまま様になって見えるのは、色や粒の大きさの違う小石、砂、粘土が層になって積み重なっていることをおさえる。このとき、小石や砂や粘土を実際に見たり触ったりさせながら、粒の大きさや手触りの違いを実感させるとよい。

【国語科（中学校）】

1 国語科における本市の傾向

(1)教研式学力検査（NRT）より

川越市国語科の偏差値は例年と同じく、中学校で実施する第1・2学年とも平均50を越えている。昨年度と比較しても1学年・2学年ともに偏差値は上昇している。また、ここ5年間の経年変化を見ると、本市中学生の平均偏差値は学年が上がるにつれて低下する傾向にあったが、今年度の第2学年は平成25年度と比較し、はじめで0.6ポイント上昇した。

(2)川越市中学校学力調査の結果から

国語科全体では、1回目の正答率が58.4%で、第2回目は52.9%であった。1回目と2回目の正答率を比較すると、2回目が5.5ポイント下がっている。問題別の正答率を見ると第2回では大問2の語句・文法が大きく下がったことと、大問3の説明的文章の内容理解が第1回と比較して下がったことが主な原因と考えられる。

2 国語科における課題

本年度実施のNRTおよび、川越市中学校学力調査の結果から、中学校国語科における課題は以下のように考えられる。

(1)ここ数年、中学生の課題として言語事項が弱い傾向が続いている。第1学年NRTでは書き取り「測量」「往復」、や第2学年「垂らす」は例年全国平均と比較して、20ポイント前後下回っている。また、中学校学力調査でも書き取りがどの調査でも低い傾向にある。また、同音異義語や熟語の構成は例年苦手分野である。

(2)文学的文章では、心情の理解は読み取れるものの、行動とその理由の読み取りが正確にできないという傾向がある。さらにその理由を限られた文字数の中で表現することになると、正確に表現することができないという課題が明確になっている。

(3)表現における課題は手紙文を書くことを苦手としている事が挙げられる。これは、スマートフォンや携帯電話が中学生にも普及し、それらから友人や家族に気軽にメールやSNS（LINE・Facebook・Twitter等）で文章を送ることが多くなった反面、挨拶文や手紙などフォーマルな文章を書く機会が少なくなっていることが大きな原因と考えられる。

(4)文法面においては副詞を正確に理解できていないという課題が見受けられる。どの語句を修飾し、どんな状態や程度を表す語句なのかを身に付けている中学生は少ない。また、読書経験や文章を読解する機会の少ない生徒にとっては、副詞の呼応関係を目にすることが少ないためか、正確に身に付いていない状況である。

3 指導の手立て

これらの課題をもとに、本年度の指導の手立ては以下の3点であると考え、課題解決のための指導資料を作成した。（「学力分析と指導の手立て12」中学校国語 指導資料①②③）

(1)間違えやすい漢字

漢字の学習はより多くの語句に触れるような学習機会を作り、繰り返し行

うことが重要である。熟語の構成についても同様であり、指導計画作成の際、意図的・計画的に学習する場面を設けていくことが必要であろう。また、送り仮名の難しい漢字についても学習機会を増やし、数多く触れさせたい。

具体的には、特に間違えやすい同音異義語は「開放・介抱・快方・解放・解法・会報」のように使用頻度が多く同音異義語の数が多いものである。そこで、指導資料①では上記のような同音異義語の問題を掲載した。

次に、熟語の構成については、二字熟語の5つの構成「意味が似ている漢字」「意味が対になる漢字」「主語と述語の関係」「下の漢字が上の漢字の目的や対象を表す漢字」「上の漢字が下の漢字を修飾する漢字」についてもしっかり学習させたい。

さらに、「著しい」「暖かい」などのように中学生が日常使用中で、間違えやすい送りがなについて学習機会を増やしたい。

(2) 手紙の書き方

メールやSNS (LINE・Facebook・Twitter等) で文章を送ることが多くなった昨今の中学生は、改まった手紙を書く機会が非常に少なくなっている。

手紙に関しては(1)学習する場の設定 (指導計画上の位置付け) → (2)手紙の定型を学ぶ (スタンダードの認識) → (3)手紙を書く機会を増やす (活用能力の育成) と言う流れを設定する必要がある。特に(2)の手紙の定型をしつかりと身に付けることが重要であると考えた。

そこで、手紙文の正しい書き方を身に付けるために実際の手紙文を指導資料② (ワークシート) として作成し、定型の定着を図る工夫をした。このワークシートは「書き出し」「時候のあいさつ」「結びのあいさつ」「日付」「署名」「あて名」を正しく書き込む場所が学習できるような構成になっている。また、下段にヒントを配し、より学習しやすくなるようなスタイルにした。

特に時候のあいさつの文言はある程度決まっているので、1年(1月から12月)の具体的な文言を複数記入できるように行う指導をしたい。学習する際には、国語便覧や国語辞典等を活用しながら行う指導をこころがけたい。(国語辞典などの活用は日頃の国語科の授業でも同様である)

(3) 文法 (副詞の呼応)

携帯電話やスマホでのメールのやりとりや、若者文化が作り出す造語などの言語環境によって、活用しない自立語の中の「副詞」は使う機会の多い割に正しく使えていない、という実態がある。

そこで、「副詞」の学習についての指導の手立てを指導資料③ (ワークシート) として作成した。「連体詞」や「副詞」の用法等を習得する場合、第1学年で学習すべき「修飾・被修飾の関係」が理解できないう身に付いていない生徒も多い。したがって、「連体詞」や「副詞」の学習の前段階として、「修飾・被修飾の関係」を確実に理解させる手立てが必要である。

指導の手立てとして作成した指導資料③ (ワークシート) は、「副詞の定義」について設問形式にまとめられた。その種別 (状態の副詞・程度の副詞・呼応の副詞) の具体例を挙げながらそれぞれについて説明した。

【社会科（中学校）】

1 社会科における本市の傾向

(1) NRTの偏差値からみた傾向

教研式標準学力検査（NRT）の偏差値は、平成21年度から平成26年度で平均値を下回り、学年が進むにつれ、偏差値が低下している。特に第2学年で低下の幅が約1ポイントと大きい。

全国と川越市の通過率を比較すると、第1・2学年ともに下回りそのポイントも学年が進むにつれて低下の傾向にある。

5段階出現率を見ると、4と5の段階の割合の合計が、1学年が全国と同数、2学年もほぼ同数である。しかし、1の段階は1・2学年ともに全国の2倍近くであり、10パーセントを超えている。これは、学力の差が顕著になってきているといえる。

第1学年の分野別では、地理的分野が全国を上回り、歴史的分野と公民的分野が下回っている。第2学年の分野では、地理的分野・歴史的分野ともに下回っており、特に奈良、平安、鎌倉時代の学習内容が大きく全国平均と比較して下回っている。

(2) 中学生学力調査の結果から

領域別に見ると地理的分野の設問での正答率が高く、歴史的分野（特に近世～近代）の正答率が低い。歴史的分野近世～近代の日本の平均正答率は34.5%と低い結果となっている。

問題の内容別結果の中では、特に第1回 大問4(2)「伊藤博文と関わりのある出来事の古い順並べかえ」の正答率が13.5%、大問4(3)「明治政府の政策」の正答率が16.5%と低かった。

観点別に見ると資料活用の技能の設問は正答率が比較的高く（特に地理的分野）、社会的思考・判断・表現の設問での正答率が低い傾向が見られる。また、歴史的分野の中で複数の事象を時代順に並べ替える設問など、ひとつの歴史事象とその時の時代背景を併せて問う設問や、複数の事象を関連させて問う設問の正答率が低い。

2 社会科における課題

歴史的各事象の知識を確実に身に付けるとともに、各時代毎にしっかりとまとめ、時代背景とともにその内容をきちんと整理する必要がある。また、歴史の大きな流れの中で、歴史的事象間の因果関係を理解させることが大切である。さらに、近現代に於いては、当時の国内情勢と国際情勢との関連の中で歴史的事象しっかりと理解させることが大切である。具体的には、その事象が起きた原因とその結果、その結果が与えた影響などを、国内と国外・国際情勢を関連付けて理解できるようにする必要がある。

また、政治面などの変革に着目させ、それによって前の時代と違うどのような特色が生まれたのかを考察し、自分の言葉で表現して、時代の転換の様子をとらえさせる学習を、教師がいかに進めていくかが重要である。

- 3 歴史的分野における基礎・基本的な知識・技能の定着を図る手立て
～平安時代と比較し、鎌倉時代の特色を大きくとらえる学習～

(1) 学習指導要領 「中世の日本」の中項目のねらい

ア 武家政治の特色を考えさせ、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに、東アジア世界との密接なかかわりがみられたことを、理解させる。
イ 武家政治の展開や民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解させる。

(2) 授業で扱う具体的な内容

武家政治の特色	東アジアの国際関係	武家政治の展開や民衆の成長を背景とした社会や文化
武士が台頭し、やがて「主従の結びつきや武力を背景として」東国に武家政権が成立したこと	東アジア世界との密接なかかわりや、それが国内に及ぼした影響	技術面の進歩によって農業や工業が発達し、生活が向上し、商品流通が活発化したこと
御家人制度を基盤とする鎌倉基府の成立	元寇と鎌倉幕府の滅亡	諸産業の発達と民衆の生活 鎌倉時代の文化と新しい仏教

(3) 指導目標

古代から中世への転換の様子を、古代の天皇や貴族の政治との違いに着目して考察し、自分の言葉で表現できるようにする。

(4) 学習テーマ

「平安時代と比較し、政治、外交、人々の生活、文化と仏教の面から鎌倉時代の特色をとらえよう」

(5) 基礎・基本の定着を図る手立て

- ① 平安時代との違いという視点に立って、鎌倉時代を学習することにより、武家政権の成立や武家政治の特色および古代から中世への変化を理解させる。
- ② 学習のまとめとして新聞を作成させ、習得した基礎的・基本的な知識や技能の活用とその定着を図り、ねらいにせまる。

【数学科】

1 数学科における本市の傾向

(1) NRTの偏差値からみた傾向

中学校第1・2学年では、平成26年度、偏差値の平均値50を下回る。前年度との比較では、第1学年で0.2ポイント、第2学年では1.5ポイント低下している。経年変化を見ると、平均値50から徐々に下回っていく傾向にある。

(2) 正答率、通過率にみる全国との比較

①第1学年(内容小学校第6学年)

- ・全国通過率と10ポイント以上の差がある内容は「展開図・四角柱」、「四角柱の体積」、「比例関係の適用」である。「図形」、「関数」領域で全国との差が大きい傾向にある。

②第2学年(内容中学校第1学年)

- ・全国通過率と10ポイント以上の差がある内容は「作図の手順・垂線」、「 y が x に比例」、「反比例のグラフ」、「有効数字」である。「図形」、「関数」、「資料の活用」領域で全国との差が大きい傾向にあり、「関数」領域は全国的に見ても例年通過率が低い。以下は、「比例」に関わる中領域の経年比較である。

「比例」に関わる中領域の比較 (正答率)	平成24年	平成25年	平成26年
二つの量の関係、関係を表す式 (小学校第5学年内容)	川越市 61.2	60.5	
	全国 58	57.8	
	全国との差 3.2	2.7	
比例や反比例 (小学校第6学年内容)	川越市 47.8	46.6	44.8
	全国 49.5	50.1	50.1
	全国との差 -1.7	-3.5	-5.3
比例と反比例 (中学校1年内容)	川越市 53	39.6	38.4
	全国 53.3	45.3	45.3
	全国との差 -0.3	-5.7	-6.9

…同一集団

2 中学生学力調査の結果から

- ・基礎的・基本的な知識・技能を習得することで解決できる「数と式」、「方程式」に関する小問では、比較的正答率が高い。「図形」、「関数」、「資料の活用」の領域に関わる問題では、全体的に正答率が低い。
- ・「図形」領域では、図形を動的に捉えたり、根拠を明らかにして筋道を立て説明したり、その説明から新たな性質や関係を読み取ったりすることに課題がある。また、「関数」領域では、関数的な見方や考え方を活用して事象をとらえる小問で正答率が低く課題がある。

3 数学科における課題

(1)「図形」についての指導

平面図形の基本的な作図方法の定着を通して、図形の性質などについて実感的な理解を深め、論理的に考察できるような指導が必要である。

(2)「関数」についての指導

変化の様子を調べ、対応のきままりを見いだしたり、式、表、グラフを比例定数と関連付けたりして理解できるような指導が必要である。

(3)「資料の活用」についての指導

目的に応じて資料を収集して処理し、その傾向を読み取って判断したり説明したりすることを通して、「代表値」や「相対度数」等、基本的な用語の必要性と意味を理解し、統計的な見方や考え方を養うような指導が必要である。

4 指導の手立て

(1) 図形

基本の作図方法を定着するための工夫

基本の作図方法については、小学校ではコンパスなどを複数学年で活用するにも関わらず、中学校では第1学年の時に数時間扱う程度なので、定着が難しい内容である。作図方法を理解し活用していくには、ただ手順を覚えるのではなく、意味を理解することが大切である。実際には、対称性等を意識して学習していくが、それぞれの作図が意味するもの（ひし形等）も指導していく。また、実際に紙を折ってみて、その折り目の線の特徴を調べてみるなど、数学的活動を取り入れながら、実感を持って特徴を理解していくように工夫をする。さらに、各学年で図形の学習をするときに、意図的に作図の内容について触れることも大切である。例えば、第2学年の証明の学習のときに、作図の方法が正しいことの証明を試みたり、第3学年の円周角の学習のときに、作図を通して成り立つ性質を確かめたりすることもできる。

繰り返し扱うことで、作図の方法を確実に定着させていくようにする。

(2) 関数

比例定数の理解を深めるための指導の工夫

関数関係を表す方法には、文章、式、表、グラフの四つがあり、これらの四つを結び付けてとらえられるようにすることが求められる。

数量関係の問題で、特に、比例の場面を扱う際に、重要な役割を担う値が「比例定数」である。その符号が「+」であるか「-」であるかは、 x の増加に伴う y の値が「増加するか」あるいは「減少するか」に拠る。関係する二つの数量の変化に着目し、その変化の割合をとらえられるような指導を積み重ねていくことが大切なポイントとなる。

数量関係を的確にとらえられるように、単元を通して式・表・グラフに表したり、関連付けたり、読み取ったりできるようにしたい。

(3) 資料の活用

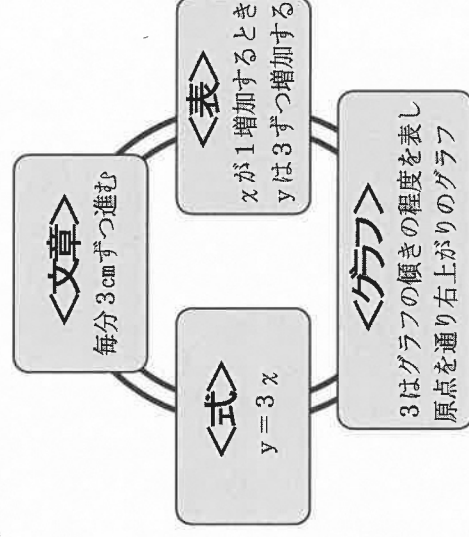
資料を整理し、傾向をとらえ、数学的な表現で説明する力を育むための指導の工夫

生徒の説明には日常的な表現が見られることがあるので、既習事項を活用して、数学的な表現で的確に説明できるようにし、説明の質を高めていけるような活動を充実させる。

活動例 ボウリング大会の出場選手を決めよう。

あるボウリングチームでは大会の個人戦に出場する選手を1人決めることになりました。表1は候補の選手2人の選手が20ゲームずつ投げた得点の結果です。表2は、表1を度数分布表に整理したものです。あなたはどちらの選手が出場するのにふさわしいと思いますか。

◎「どちらの選手が、本番の緊張した状況で力を発揮できるか」など具体的な場面を想定させ、その傾向について話し合えるようにする。



【理科（中学校）】

- 1 教研式標準学力調査(NRT)の偏差値からみた傾向
 - ・ 中学校では、第1・2学年ともに平均値を下回っている。また、学年が進むにつれ、全国を下回っている領域数が増加する傾向が見られる。
 - ・ 全国と川越市の中領域の正答率を比較すると、第1学年では、1・2領域中1・1領域（－5%以上の領域は5領域）、第2学年では、1・1領域中すべての領域（－5%以上の領域は8領域）で下回っている。
 - ・ 第1学年(内容は小学校第6学年)の「気体の溶けた水溶液」「小腸の役割と位置」「月の表面・クレーター」「三日月と太陽の位置」、第2学年(内容は第1学年)の「圧力の計算」「質量パーセント濃度」「用語：フックの法則、溶質、蒸留、道管」において、全国の通過率を大きく(15%以上)下回っている。
- 2 川越市中学生学力調査より
 - 正答率が30%を下回った小問内容は以下の通りである。

第1回	<1年生の内容> ○ 圧力の大きさ (いろいろな力の世界) ○ 質量パーセント濃度 (水溶液の性質) ○ 堆積岩 (大地の変化) <2年生の内容> ○ 熱量 (電流の性質) ○ ひとみの大きさ (刺激と反応)
第2回	<1・2年生の内容> ○ ゼニゴケ (種子をつくらない植物) ○ 湿度・水滴・雲の実験 (雲のでき方と水蒸気) <3年生の内容> ○ 酸とアルカリ・水素イオン・中和 (酸、アルカリとイオン) ○ 斜面の台車の運動・速さ (物体のいろいろな運動)

この分析結果をもとに、学習内容が定着するような指導方法の改善・定着を図って行く必要がある。

3 理科における課題

実験等には積極的に取り組む一方で、前後の学習と結び付けて思考する力が十分に身に付いていない現状がある。本市の課題は、目的意識をもって科学的に探究する学習を進めていくことである。そこで、「実験の目的意識を高める」という視点で、「仮説」「グループで話し合い」「検証実験」という流れで行うことにより深めていく指導の手立てを示すこととした。

4 指導の手立て（電流回路の規則性を例にして）

(1) 生活経験や既習事項などから、根拠を持たせて予想を立てさせる
 → 自分なりの根拠を持ち、文章化することで思考の可視化ができる。
 「予想は〇〇〇、なぜならば・・・」 ※<資料1 ワークシート>

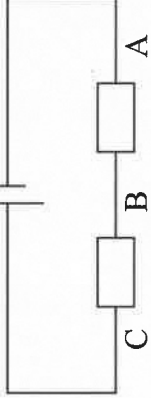
(2) 小グループでの話し合いを通して考えを深めさせる→全体へ発表
 → 生徒一人一人が根拠を明確にして意見を述べ表現することで、思考が洗練される。
 → 他者と自分の考えのちがいを見付けるなかで、考えが深まり、考えが変化する。
 → 比較・分類・関連付けなどを行い、多様な観点から考えを深める。
 ※<資料2 話し合いの役割と話し合いの流れ>

(3) 仮説を検証する実験

→ 実験の目的が明確になることで知的好奇心を喚起し主体的に活動できる。

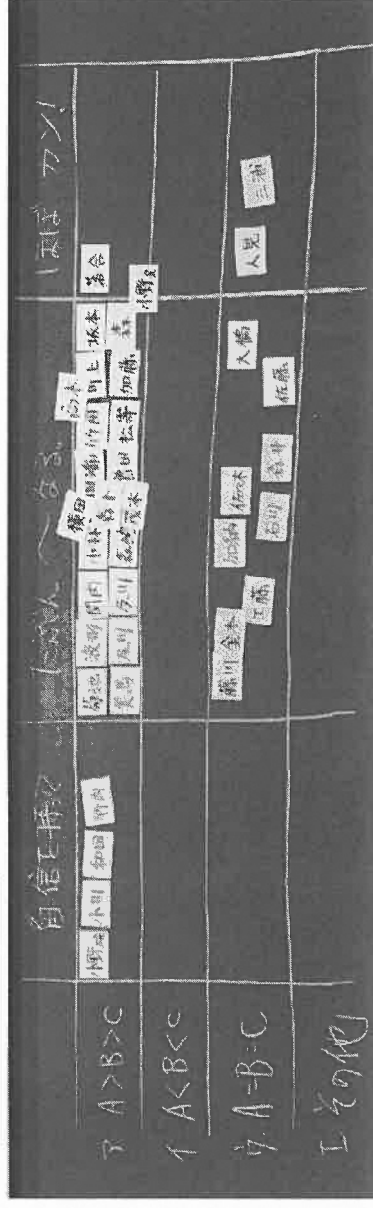
参考：自分の考えや他者の考えが見えるようにする。（可視化）

板書 ABC各点の電流



	自信を持って	たぶん〜なる	ほぼ、カン!
ア $A > B > C$			
イ $A < B < C$			
ウ $A = B = C$			
エ その他			

①話し合いをする前の個人の考え



自信を持って

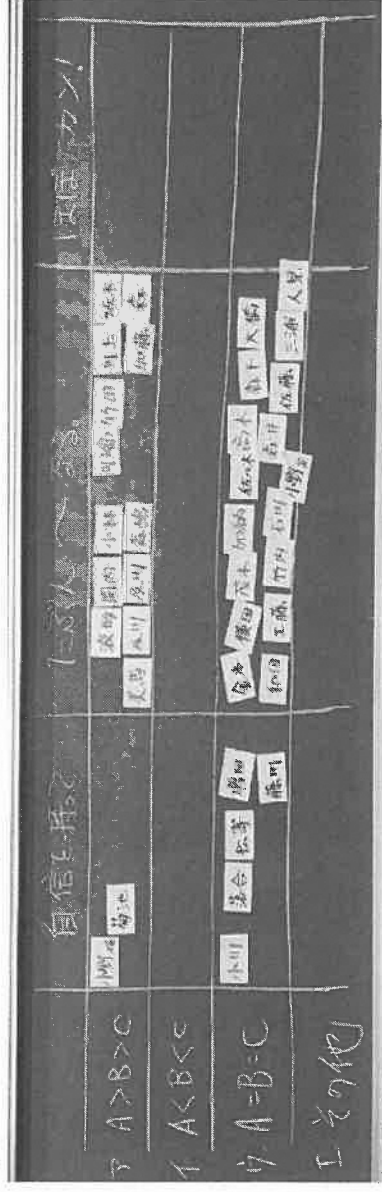
たぶん〜なる

ほぼ、カン!

その他

②小グループによる話し合いを行い、仮説を立てる。→クラス全体に発表。

③話し合いをした後の個人の考え



自信を持って

たぶん〜なる

ほぼ、カン!

その他

【英語科】

1 英語科における本市の傾向

(1) 教研式標準学力検査（NRT）では、平成20年度以降、偏差値50を上回っている。4領域（聞く・話す・読む・書く）で見ると、話すところが全国平均を0.5%下回った以外は、全国平均を上回っている。しかし、「語や文を正確に聞き取る」、「強勢や区切りに注意して話す」「適切な表現を用いて書く」に課題が見られる。

(2) 川越市中学生学力調査において、第1回、第2回を通して、リスニングの正答率が高いが、「語順整序」「英問英答」「要約文の適語補充」の正答率は低かった。場面にあった英語を聞いて理解する力は上がっていると考えられるが、正しい語順で表現することに課題が見られる。

2 英語科における課題

(1) 強勢や区切りを意識して、読んだり、話すことができる力を付けるために、強勢や区切りの箇所をあらかじめ必要であると考える。身近な話題等を扱った英文に数多く触れ、継続して取り組む中で、強勢、区切りを更に意識して、対話や文を読み取る力の育成を図る。

(2) 「語順整序」「英問英答」の力を育成するためには、基本文や場面に適した表現を何度も繰り返し聞いたり、実際に表現したりする練習が必要であると考えられる。そこで、実際に役割を演じるなどの活動以外に単語や基本文の書き取り練習を習慣化し、常に綴りや語順を意識して言う、書けるように練習する場面を設定し、これらの力の育成を図る。

3 指導の手立て

(1) 強勢と区切りを意識して読む指導の工夫

〔該当学年：全学年〕

【学力分析と指導の手立て1 2 英語科 指導資料(1)】

短い文章を用いて、強勢と区切りを意識しながら読む練習をする。始めに一語読みを行い、次にチャンク読み、センテンス読みという区切りだけでなく、意味の流れも意識しながら行う。

強勢については、強く読む部分の単語を太字で示しており、読む際に意識できるように工夫した。

(2) 日本語と異なる英語の語順を身に付ける

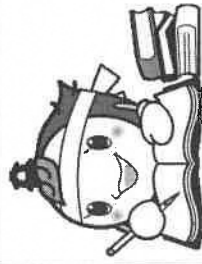
〔該当学年：全学年〕

【学力分析と指導の手立て1 2 英語科 指導資料(2)】

英語の語順を理解した上で、表にある語句をならべて、たくさんの英文を作る。始めは、適切な表現になるように文章を組み立てる。慣れてきたら、あえてあり得ない意味の英文になるように、組み立ててみる。これにより、英文の組み立てをたくさん練習できる。

表を使った英文作りに慣れたら、制限時間内にくいつ英文を作ることが出来るか、を競わせる活動も考えられる。また、授業の最初に英文作りタイム(仮称)として、たとえば3分間ほど取り組ませると、英文作りにより慣れることができ良い。力のある生徒に対しては、表にない英語を使ってもよいというような課題を設定してもよい。

生徒自身が作成した単語表を活用することもできる。生徒一人一人が意欲的に取り組める工夫をすればさらに活用できる。



小江戸川越

寺子屋タイムズ (小学校国語版①)

川越市教育委員会・川越市学力向上研究委員会 平成27年1月

川越市エデュケーションセンター ときま

「主語・述語・修飾語」を「読むこと」「書くこと」の学習の中でも取り上げること、活用する力を伸ばします。

先生、トイレ!

先生は、トイレはありません。

たとえば 伝わるんじゃないですか?

先生は、トイレですか?

主語と述語がきちんとそろっていることが大切です。

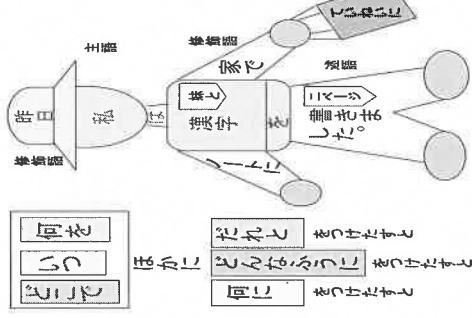
先生、トイレに行きたいです。

主語・述語の見つけ方 (スタンダード)

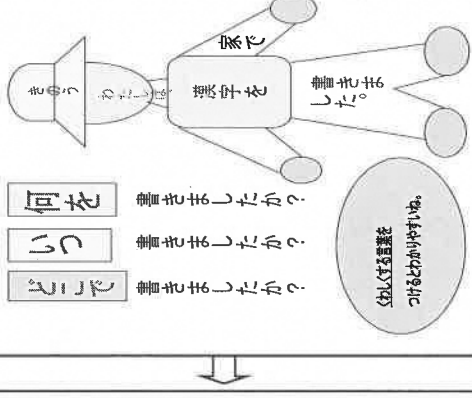
① 述語を見つけれ。(述語は、文末にある。)

② 述語に合わせて、「誰が」「何が」「何が」に相当する言葉を探る。必ず主語と述語を続けて読み、対応していることを確認する。

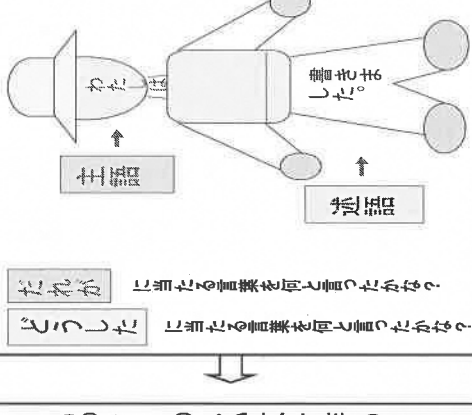
③ 主語・述語以外の修飾語になる。



もっとももっともくわしい文を作ろう



もっとくわしい文を作ろう



文を作ってみよう

ちやんぷん形 (文の仕組み)

読むことでの学習の中で

- ① ひなは、知りました。
→何を、いつか。
- ② ひなは、書きました。
→何を、いつか。

ひなは、春の経験、かんは、はじめて、最初、飛び立ったものの後、ついでに、飛ぶ、ついでに、知りました。ひなは、手に入れた、かんは、ひなは、はなを、はなは、はなは、仲間を、はなは、知りました。

『大昔の物語』

学生が進む文章が長く、複雑なことに伴って、主語と述語を探る文の仕組みがわかりやすくなり、内容の理解が進みます。

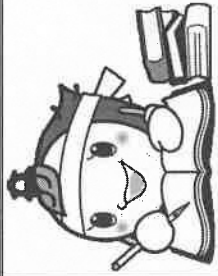
書くことでの学習の中で

- ① 朝、雨が降りました。
- ② お母さんが、選定は中止になりました。
- ③ 馬は、かっかしました。

わかるい文は、主語と述語を確認しよう。

馬は、朝、雨が降りました。お母さんが選定は中止になりました。かっかしました。

主語と述語の関係が正しいか見てみましょう。わかりにくいものは、一文を短く明瞭に書き直しましょう。



学習を始める前に確かめよう

よい姿勢・筆の持ち方



ポイント

- ・足の裏は、床につけて少し開く。
- ・背中を伸ばす
- ・お腹と背中に「グー1つ分」空ける。
- ・紙を軽く押さえる。
- ・ひじを上げる。

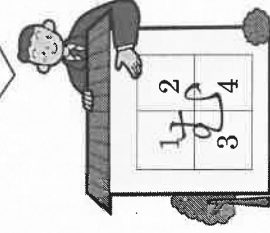


用具の準備・手の位置



文字のお部屋

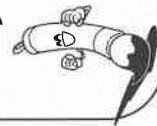
文字の書き始めを意識させましょう。



学習の進め方 (基本)

- ① 準備する
- ② 学習のめあてを確かめる
- ③ 試し書きをする (硬筆 or 毛筆)
- ④ **考える (ここポイント!)**
 - ◎ 試し書きと教科書の文字を比べる (自己批評・相互批評)
 - 批評の観点は、本時のめあてに基づく
 - ◎ 水書板を活用する
 - ◎ 映像を見せる (例 筆使い・穂先の動き 等)
 - 書写指導書 CD-ROM を活用
- ⑤ 練習する (半紙3枚程度)
 - ◎ 様々な練習用紙を用意して、自分の課題に合ったものを選ばせるのもよい。(例 かご字・骨書き・文字枠等)
 - 書写指導書 CD-ROM を活用
- ⑥ まとめ書きをする (毛筆→硬筆で確認)
- ⑦ 振り返りをする
- ⑧ 片付ける
- ★ 番外編…他教科や生活に生かす (授業後)
 - ノート・手紙・掲示物・ポスター・新聞等

練習用紙は印刷して使う
(練習用紙の一例)



自己批評



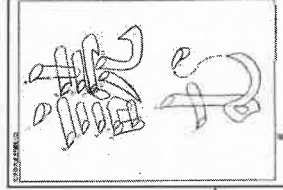
相互批評



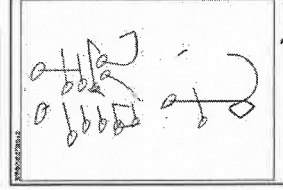
- ・書いたものと教科書(手本)の文字を比べる。
- ・批評の観点は、本時のめあてに基づく。
- ◎ 「二文字以上書く時は、一文字目の大きさや位置も大切だね。」
- ◎ 「手本と比べると、平仮名をもう少し小さく書くといいかも…」

- ・友達とお互いに書いた文字を批評する。(言語活動)
- ・批評の観点は、本時のめあてに基づく。
- ◎ 「〇〇君は、文字の大きさに気を付けて書いているね。」
- ◎ 「△△さんと比べると、僕は、もっと大きさに変化をつけた方がいい。」

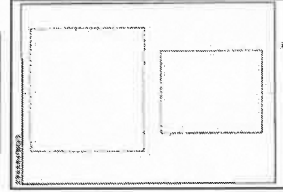
かご字

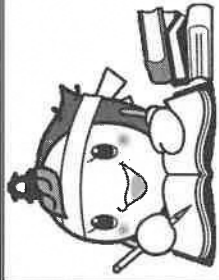


骨書き



枠のみ





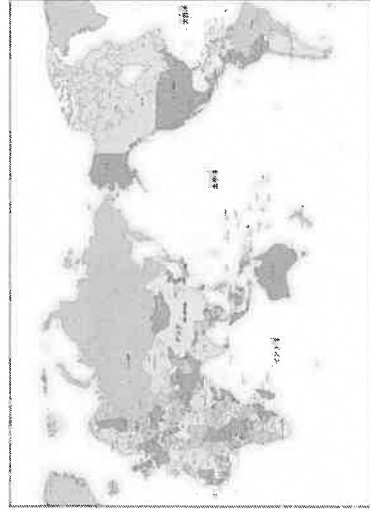
小江戸川越

寺子屋タイムズ (社会科版①)

川越市教育委員会 トキモキャラクター

川越市教育委員会・川越市学力向上研究委員会 平成26年11月13日

学習指導要領 (第5学年) の「世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置、我が国の位置と領土」で、六大陸と三海洋の名称と位置や広がりを取り上げるとあります。しかし、児童の実態を見ると世界地図等を効果的に活用する能力や、主な国の名称や位置に関する知識がやや弱いので、それらを高めるための手立てとして、以下のような取り組みがあります。社会科と英語活動とのコラボレーション、休み時間等で取り組みなど様々な方法が考えられます。



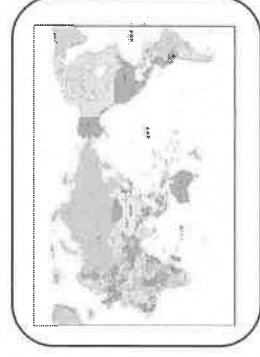
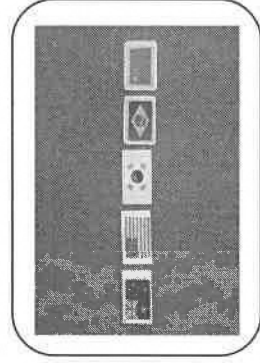
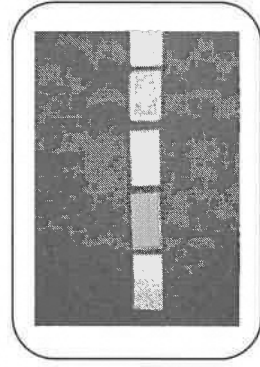
世界地図を使って、国の名前や場所を楽しく学習するアイデアを紹介します！

※日本地図を使って都道府県の場合を学習する方法にも活用できます！



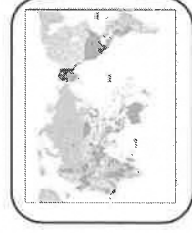
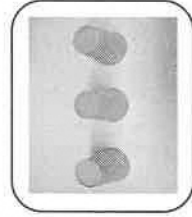
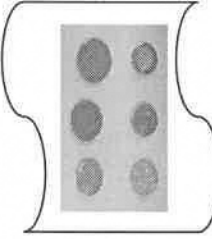
例1 《国旗カードゲーム》

- ① 4グループを作る。
- ② 各グループから1人ずつ代表者が出る。
- ③ 「Ready Go!」で裏返した国旗カードを1枚選び、出た国旗の国の場所を地図上でタッチしながら、国名を言う。



例2 《コインゲーム》

- ① 3グループを作る。
- ② 各グループから1人ずつ代表者が出る。
- ③ 「Ready Go!」でコップを1つ選び、中に入っている海外のコインの場所を地図上でタッチしながら、国名を言う。 ※グループの友だちと相談可。



海外のコイン

「どこの国のコインかな？」

「アメリカだ！」



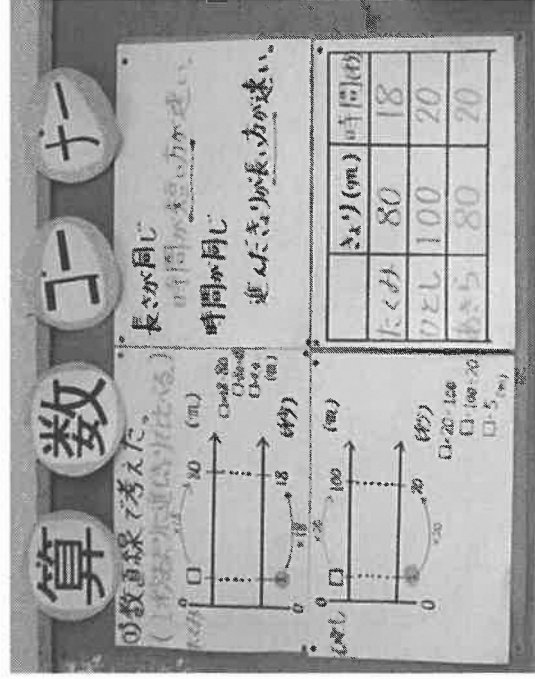
よりよい授業にするために！

(1) 1 単位時間の流れを明確にする

算数科において、1 単位時間の流れを明確にして授業を進めることは大切です。学習過程 (例) を「つかむ」「見通す」「解く」「話し合う」「まとめる」とし、教室に掲示しておくと、児童にとっても流れがわかります。

「見通す」段階では、「どんな考え方・方法ならできそうか」を考えたり、「どんな答えになりそうか」を見当をつけたりします。

また、【写真1】のように、自力解決時の手立てとなる既習事項を算数コーナーに提示しておきます。



【写真1】 算数コーナー

(2) 板書とノート作り

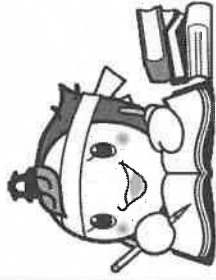
児童が、問題をどのように考えたのか、どのようなことを学んで、何ができるようになったのか等を教師が知ることができるのは児童一人一人のノートからです。児童がどのようにノートの記述していくのかは、教師の板書が大きく影響します。黒板には、比較的多くの内容を残すことができます。児童は板書されている他の児童の考えをヒントにしたり、複数の考えを比較したりしながら思考していきます。また、算数科は系統性のある教科です。板書を丁寧に構成し、学習したことを振り返ることができるノート作りを心掛けます。

【写真2】は1 単位時間の板書の例です。**1 単位時間の流れと合うように板書を構成**していきます。授業の最後に板書を見たときに、**児童の思考の流れを確認**できるようにすること、この授業を通して学習したことを一目で把握できるようにすることが大切です。

学習の流れ	
つかむ	今までと違うところを探そう。 課題は何かな。
見通す	どんな考え方・方法ならできそうかな。 どんな答えになりそうかな。
解く	自分の力で解いてみよう。 別の方法・考え方でもやってみよう。
話し合う	わかるように説明しよう。 友達の考えをよく聞こう。
まとめる	よいところを見つけてよう。 似ているところ、同じところ、いつでも使える方法。 課題に沿って書こう。 自分の言葉で書けるといいよ。



【写真2】 板書の例



川崎市マスコットキャラクター ときも

小江戸川越

寺子屋タイムズ（小学校理科版①）

川崎市教育委員会・川越市学力向上研究委員会

平成27年3月

問題解決能力育成のポイント

問題を見だし、予想をたて、観察・実験を行い、結果を整理し、考察やまとめを行う、という流れで学習を進め、予想や考察の場面では話し合いを行います。この過程を繰り返し行うことによって、科学的な見方や考え方が育ち、問題解決の能力が育成されていきます。

問題解決学習の流れ



考察をしよう

問題 どうすればろうそくの火を燃え続けさせることができるのだろうか。

結果 上下にすぎまがあると炎はよく燃え、煙もたまらなかった。

考察 このことから、ろうそくが燃え続けるには、空気が入れかわる必要があると考える。←結論
なぜなら、線香の火が下から上へ動いていたら。←根拠

①個人の考察

実験後、結果について自分の考えをまとめます。

②グループでの考察

グループの中では、役割分担をしながら、個人の考察を検討します。

③全体での共有

聞いているみんなにわかるように理由や考えを説明し、考えを共有することによって、少しずつ科学的な見方や考え方が育っていきます。

予想をしっかりとよう

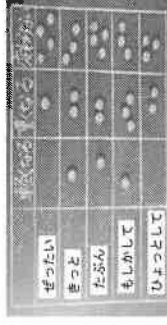
①視点を与える



②自分の考えを書く

～だと思えます。理由は、～だからです。

③個人のマグネットを置く

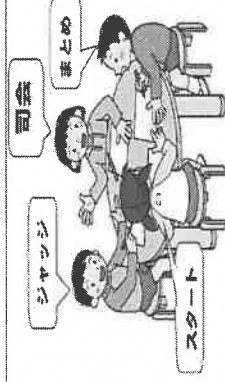


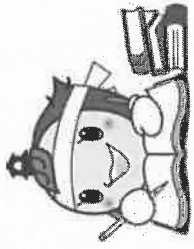
児童の考えを板書きし、残すことによって考えの変容を視覚化できます。自信度によって「ぜったい」「きっと」「たぶん」「もしかして」「ひょっとして」の5段階に分けて自分のネームプレートを貼っていきます。友達の意見を聞いて考えが変わったら、プレートを動かしてOKです。

話し合いをしよう

*根拠をもとにして、論理的に説明をするには、役割を決めよう。

司会： 情報を明確化する
 スタート： 説明する
 シャッジ： 批判的に思考する
 まとめ： 行動決定する





小江戸川越

寺子屋タイムズ (生活科版③)

川越市教育委員会・川越市学力向上研究委員会 平成27年2月

生活科でいう「気付き」って？

ザリガニって後ろに
もうごくんだ!

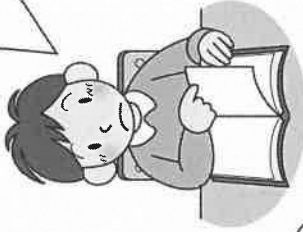
1ひきが2ひきにな
っている! 1ひきは
白くなっとうごかな
いそ。……これが
だっぴんんだ

ザリガニが
かかれるとこ
ろをつくらう。

本で
調べてみる?

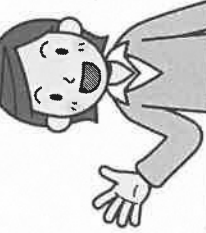
どんなところにすん
でいたか、思い出し
てごらん

ザリガニって後ろにうごく
だっぴんの方は…
たまごは、どうやってうむのか



毎日世話をする(対象と関わる)
ことで「気付き」が生まれてくる

「気付き」、どうやって評価するの？



ていねいに

見取る

- ・日々のやりとりの中から、評価をしていく
- ・補助簿を有効に活用する

1月20日(水) 3校時 活動 (お正月遊び)

名前	様子
しゅう	こうせいさんに教わって、こま回しに挑戦する。初めてのこま
こうせい	こま回しを教えることができた。
けいな	けん玉の持ち方を教えたなら、夢中で練習する。大ざらにのって喜ぶ。
文音	けん玉の持ち方を教えていた。
ほのか	“けん玉はひざを使うといいんだ”と言う

＜ 補助簿の例 ＞

みつけたよ

まびきをしたよ

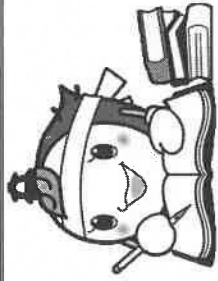
十一月 五日(水) 天候(晴) 2日



今日、まびきをしました。大きくそぼって
いるのもあったし、かれちゃっているのも
ありました。先っぽか細くなってました。
大こんをゆくときに力を入れないと、あん
まいゆけそうにありませんでした。……

長いスパンで一人
一人の児童を評価
できればOK!





小江戸川越

寺子屋タイムズ (小学校音楽版②)

川越市マスコットキャラクターととぎも

川越市教育委員会・川越市学力向上研究委員会 平成27年1月

低学年における器楽指導～教研担任の先生方からのお悩み特集～

今回は、2年生3学期の教材「こぐまの二月」を取り上げて、陥りやすい器楽指導の問題点に対しての解決策をあげてみました。これがすべてというわけではありません。ご参考まで…。

お悩み1： 指番号通りに演奏できない子がいいます。1本指

での演奏を修正するには、どのようなことから

取り組んだらよいでしょうか？

～指導のポイント！～

○演奏前に、指のポジションを確認しましょう。

○「指またぎ」や「指ぐり」の技能が身に付いてくると旋律がなめらかになります。演奏の幅が広がり、技能が高まってきたことを感じてくるはずですよ。

○同じ音は、鍵盤を押したまま“タンギング”をします。

お悩み2： 演奏をしていると、どんどん遅くなってしま

います。同じ速さで演奏するようにするには、ど

のような方法がありますか？

～指導のポイント！～

○1 拍目を意識した演奏を。少しアクセントをつけるとよいでしょう。

○テンポを落として、拍の意識を高めさせましょう。

○手拍子をしながら、“休符”をしっかりとる感覚をつかませると効果的です。

【題材名】

たがいの音をきこ

【小学生の音楽2(教育芸術社 P50～51)】

【ねらい】

互いの楽器の音を聴き合いながら、気持ちを合わせて演奏することができるようにする。

こぐまの二月

お悩み3： 低学年のうちから、階名が覚めるような指導が

必要ですか？

～指導のポイント！～

○まずは、模唱から始めましょう。指導法として第1線から線上の音を下から読むとミ・ソ・シ・レ・ファとなるので、「味噌汁は」と読み替えると覚えやすいです。

お悩み4： プレスをたくさんしてしまいう子がいいます。

～指導のポイント！～

○階名唱の時も“プレス(V)”を意識させましょう！

○演奏する時には、タンギングを忘れずに！

◎トウートウートウー ×フーフーフー

お悩み5： 合奏をすると、どうしても拍が合わずれてし

ます。合奏するためには、どんな練習をし

たらよいですか？

～指導のポイント！～

○リズム唱をテンポに合わせてやってみましょう。

○演奏する人数を半分にしてみましょう。

→聴く子に意見をもらおうのも効果的です。

○聴くポイントを絞りましょう。

「音の重なり方」

「休符の取り方」等

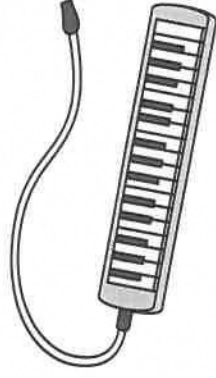


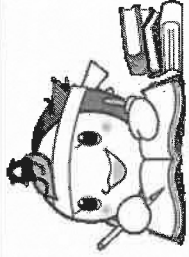
【参考】 鍵盤ハーモニカを吹く前に、いつも指の体操をしましょう！

●ゆびのたいそうを しましょう。【小学生のおんがく1(教育芸術社)P26～27】より

「ゆびあそびのうた」 土佐ちえこ 作詞/杉本竜一 作曲

2年生の3学期になると、鍵盤ハーモニカの演奏に慣れる頃です。演奏ばかりに気がとられ、指の形が疎かになりがちです。この曲は、歌いながらお互いの指先をくっつけ合う楽しい曲です。練習前に取り組むと効果的です。





家庭科は家庭で実践することが大切です！

一人一人の子どものこれからの生活を豊かで快適に営むための基礎づくり

家庭科での問題解決的な学習 題材名「ご飯とみそしるをつくらう」

*問題解決的な学習を充実するポイント

たきたてのほかほかご飯！ ご飯をたいてみよう！ ……第1次の課題

*生活について見直し、課題を見付ける。

- ① 班でご飯について知っていることを自由に話し合う。

始めにお米を洗っていたよ。

おばあちゃんが、ふたを開け
ちやいけないって言っていたよ。



水を入れていたな。

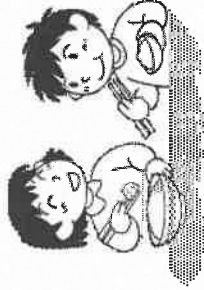
キャンプで飯ごう炊さん
をしたとき、ふたの外に
ぶくぶくあわがでてきたよ。



*解決方法を考え、計画・実行する。

- ② 班ごとに、話し合う項目を示す。
- ③ 班ごとに、手順や項目について話し合う。
- ④ 実際に自分たちが決めた手順と項目で炊飯する。
- ⑤ 試食し、感想を話し合う。

思ったより、おいしく
たけたよ。どこが
よかったのかな。



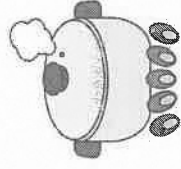
何でご飯がかたい
のかな？
こげちゃったよ！

まとめ

*振り返る。

- ⑥ 教科書で正しいご飯のたきかたについて、確認する。

洗う回数は、3・4回
水の量は…



吸水時間を考えていなかった！

火加減にも気をつけて！

蒸らして大切なんだね。

水が多かったから
おかゆみたいだ。

*班で決めること（班）

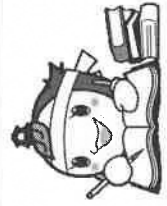
米の分量	1/2人分×班員数
米の洗う回数	
水の量	
火加減	
その他	

おいしいご飯をたいてみよう！

……第2次の課題

※確認したことをもとに、再度炊飯する。

*家庭と連携し、学んだことを生かす。



川越市マスコットキャラクターと きも

小江戸川越

寺子屋タイムズ (体育版①)

川越市教育委員会・川越市学力向上研究委員会

平成26年12月

小学校体育科の授業では、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を培う観点を重視し、最低限必要なことは徹底して指導するとともに、努力や成果を温かく認めるなど指導と評価の一体化に努める。(平成26年度学校体育必修より抜粋)

そのために

「技能」「態度」「思考・判断」の内容をバランスよく育む指導と評価の工夫が大切

その中で今回は「思考・判断」について取り上げます。(小学校学習指導要領解説 体育編より抜粋)

第1学年及び第2学年の「思考・判断」のキーワード

ア ～運動遊びの行い方を知り、楽しく遊ぶことができる場や遊び方を選ぶこと。

イ ～の動き方を知り、友達の良い動き方を見付けること。

第3学年及び第4学年の「思考・判断」のキーワード

ア ～の練習の仕方を知り、自分の力に応じた練習方法や練習の場を選ぶこと。

イ ～のポイントを知り、自分の力に合った課題を選ぶこと。

ウ 仲間との競走(争)の仕方を知り、競走(争)の規則を選ぶこと。

第5学年及び第6学年の「思考・判断」のキーワード

ア 課題の解決の仕方を知り、自分の課題に応じた練習の場や段階を選ぶこと。

イ ～を知り、自分に合った競走(争)のルールや記録への挑戦の仕方を選ぶこと。

体育Q&A

Q 体育の授業で子ども達に対してどのような発問をしたらよいか分かります、教え込みの授業になってしまいます。



A 【例 5年生 陸上運動(ハードル走)】

①ねらいの確認 ハードルの間を3歩のリズムで調子よく走って、競走したり挑戦したりする。



②ねらいを踏まえての発問

「3歩のリズムで調子よく走るために、どのような動きや姿勢をしたらいいかな。」



③思考1

『ふりあげ足をまっすぐにするといいのかな。』



③思考2

『上体を倒すといんじゃないかな。』

☆その時間のねらいを確認し、そのねらいを達成するための授業を組み立て、発問していきましょう。それが、その時間の評価につながっていきます。



川越市マスコットキャラクター ときも

小江戸川越

寺子屋タイムズ (図画工作科版②)

川越市教育委員会・川越市学力向上研究委員会

平成26年12月

子どもたちの絵の見方

あなたはどんな声かけをしていますか？

子どもたちの絵を見ると
いうことは、子どもたちの心
を見ることが同じです。図画
工作科では、作品製作の過程
を見ることが大切です。

○児童の作品の見方

- ①作品に近づいてみる。
- ②児童の描いた順番をたどる。
- ③その児童の描いた理由を考える。(この絵を描いた訳や、そのプロセスで何を感じ、何を考えたか。)一緒に楽しみ創造していくことが大切です。

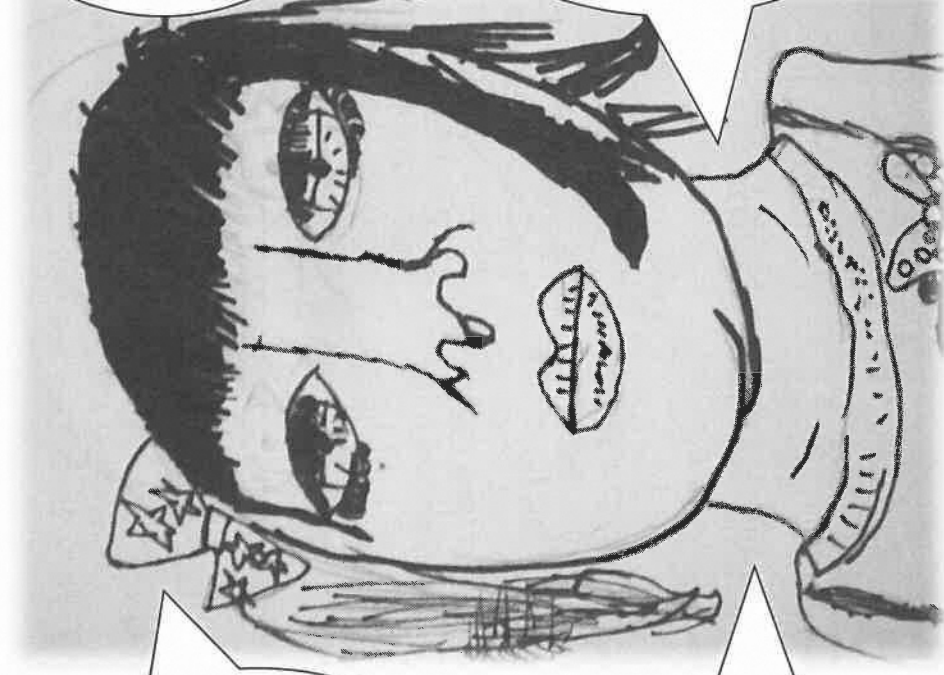


色に対する声かけ

- ・「髪の毛の艶やかな様子
色が色の濃さでよく
表現できてますね。」
- ・「〇〇さんの大好きな
クリーム色のセーター
が、色がなくとも
感じられますね。」

形に対する声かけ

- ・「目の形がとも〇
〇さんに似ている
ね。」
- ・「鼻や目の形から〇
〇さんの素直さが
表れてるね。」



イメージに対する声かけ

- ・「〇〇さんのおしゃれな
感じがリボンから伝わ
りますね。」
- ・「生き生きとした表情が
見ている人を元気にさ
せますね。」

教師の思いを伝える 声かけ

- ・「いつも大好きなリボン
をつけている〇〇さん
の様子がよく描けてい
ますね。」
- ・「今日の髪型はとってお
きの髪型だったんだ
ね。」

絵から生まれる対話

- ・うまく描けないと思っていた鼻を先生にはめられて、よく見て描いてよかったです。自信ができました。
- ・大好きなリボンを描いている自分も楽しくなりました。





小江戸川越

寺子屋タイムズ（中学校国語版①）

川越市教育委員会・川越市学力向上研究委員会 平成26年12月

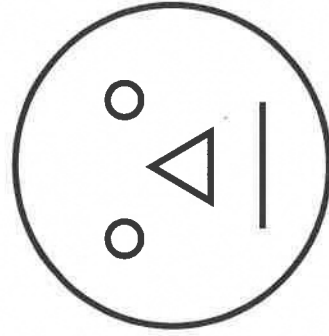
伝え合う力を身に付けるために！

＜情報正しく伝えよう＞ ～情報伝達ゲーム～

相手や目的、意図に応じて適切に表現したり正確に理解したりする「伝え合う力」の育成は、学力向上で重要です。「伝え合う力」を高めることで、国語に限らず他の教科においても、その効果が期待されます。そこで、授業で実践できる「伝え合う力」を身に付けるための事例を紹介します。

課題Ⅰの図形を、実際の絵を見せずに、言葉だけで伝えよう。

課題Ⅰ



（人の顔のような図形）

言葉だけで伝えよう。

《 取り組み方 》

- ①伝達リーダーを一人決める。
- ②課題Ⅰの図形について、言葉だけで伝えさせる。（制限時間は2分。）
- ③教師はリーダー以外の説明をメモしておく。
- ④リーダー以外は、説明を聞いて紙に書く。
- ⑤出来上がりを比べ合う。
- ⑥教師はメモしておいたリーダーの説明をもとに話した内容・順序を確認する。
- ⑦正確に早く伝わる話し方を班ごとに考える。
- ⑧考えた話し方を班ごとに発表し、より早く正確に伝える方法をまとめさせる。

《 指導のポイント 》

情報を正確に伝えるためには、相手意識を持つことが大切である。この事例は、それを体験させることが目的である。聞き手は、情報を自分のフィルター（既存の体験等）を通して理解する。話し手も自分のフィルターを通して情報を伝えようとする。だから、お互いのフィルターを一致させるように話す情報はより早く正確に伝わる。フィルターを一致させるためのポイントを学習し、スピーチや日常生活に活用させたい。

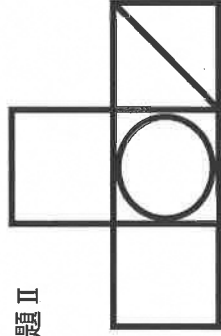
《 情報を正確に早く伝えるポイント ～フィルターを一致させるために～ 》

- ①耳からの情報は第1イメージが大事。
- ②最初に情報全体をイメージした表現をする。
- ③1文に1情報くらいの「短い文」で伝える。
- ④具体的な数値や共通理解できている事柄を活用し、表現する。
- ⑤情報を伝える順序を吟味する。



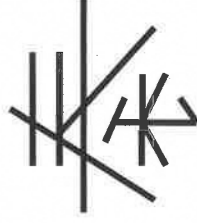
* 発展課題として下記のⅡ・Ⅲのほか、「〇〇への行き方」・「地図の説明」等 がある

発展課題Ⅱ



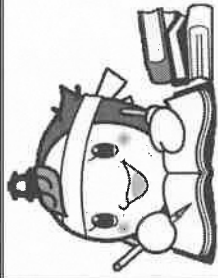
（幾何学的な図形）

発展課題Ⅲ



（漢字…正確なものではない）

*「課題の説明の例」については、発行済みの「寺子屋タイムズ(中学校国語版①)」で確認できます。



川越市教育委員会
トキモキャラクター

小江戸川越

寺子屋タイムズ (社会科版①)

川越市教育委員会・川越市学力向上研究委員会 平成27年2月

『歴史新聞』の評価を考えよう

単元のまとめとして『歴史新聞づくり』が考えられます。この新聞づくりは、社会科の力を測るために取り組ませるので、具体的な意図(評価の基準)を持つてつくらせる必要があります。歴史新聞づくりを通して、学習内容を整理させることが目的です。今回は、鎌倉時代における『歴史新聞づくり』の評価について考えてみました。

【この単元のねらいは】

「武家政治の特色」については、武士が台頭し、やがて「主従の結び付きや武力を背景にして」(内容の取扱い)東国に武家政権が成立したことなど、古代から中世への転換の様子を、**古代の天皇や貴族の政治との違いに注目して考察し、自分のことばで表現できるようにさせる。**『中学校学習指導要領解説 社会編 P.90』

中世の日本の評価規準 【思考・判断・表現】

鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府、東アジアの国際関係、応仁の乱後の社会的な変動や武家政治の特色について、多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。
(国立教育政策研究所資料より)

この記述での『思考・判断・表現』に係る評価

- 複数の視点から幕府の支配を考察している
- 幕府の成立の背景や影響に触れている
- 封建社会の特色を踏まえた記述をしている

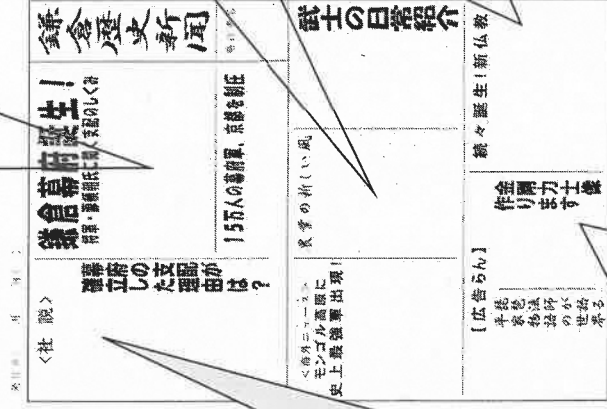
↓この

A：天皇や貴族の政治とのちがいに注目し、武家政権の特徴について具体的な歴史的事象を取り上げて、深く考察し、記述することができている。

例 将軍と御家人の間には、「御恩と奉公」という関係があった。将軍は武士の領地を守り、御家人は忠誠を誓い、将軍に尽くす。こうした関係は、天皇や貴族の政治にはなく、互いにより良い関係を築くことができたから、幕府による支配が成立したのではないかと、私は考える。

B：武家政権の特徴について具体的な歴史的事象を取り上げて記述することができている。

図表の作成『技能』



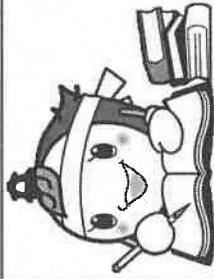
手紙形式 『思考・判断』

表にまとめる 『知識・理解』

CM作成『興味・関心』や『技能』

作成にあたっての留意点

- ・事前に評価の基準を示しておく
- ・「自由に表現させる内容」と「一定の基準で記述する内容」とを区別する
- ・自分自身のことばで記述する
- ・授業で学んだことの定着を確認できる内容構成とする



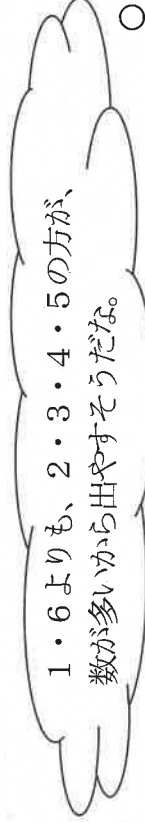
考えることが楽しい授業づくりをめざして！

数学の授業を通して、「知識・技能」、「思考力・表現力」、「関心・意欲」をバランスよく育てることが大切です。そのためには、数学的活動を充実させ、生徒が主体的に取り組むことを大切にしたい授業を仕組んでいかねばなりません。その一つとして、導入における「問題」が考えられます。「問題」をきっかけとして生徒が、「知的楽しさ」を味わえるような雰囲気を作成していきたいものです。

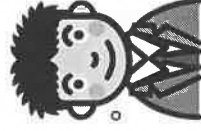
(例) 確率の導入場面において



サイコロをふって、1か6以外の目が出たら、何かごちそうしてあげようよ。その代わり、1か6が出たら、何かごちそうしてね。



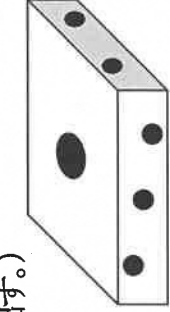
1・6よりも、2・3・4・5の方が、
数が多いから出やすそうだな。



いいよ！（何にしようかな。）

じゃ、いくよ。

(厚紙や、新品の消しゴムなどで特殊なサイコロを前もって準備しておき、
ここでもむろに取り出す。)



ずるい！



なんで、ずるいのかな？

※ 後の展開で、“同様に確からしい”につなげていく。

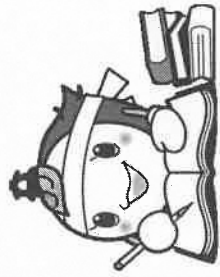


それでは、コインを2枚投げて、2枚とも同じ面と違う面で勝負をしたら、
どちらが有利になると言えるかな？

(予想をたてさせた後、実際にコインを投げて、回数を数えてみる。)

- ・ 一人50回程度投げ、それをクラスで共有することで、2000回程度の実験にできる。
- ・ 面の出方は（表と表）、（裏と裏）、（表と裏）の3通りのように見えるので、同じ面が出る場合が有利と考えられそうだが、結果は平等となる。

実際に多数回の試行を行うなどの**経験を通して**、ある事柄の起こる割合が、一定の値に近づくことを**実感を伴って理解できる**ようにすることが大切です。場合の数に基づいて確率を求めた場合には、それが正しいかどうかだけでなく、そのことによってある事柄の起こりやすさについてのどのようなことが分かったのかを実験や調査などを通して確認することも大切です。



小江戸川越

寺子屋タイムズ (中学校理科版①)

川越市マスコットキャラクター ときも

川越市教育委員会・川越市学力向上研究委員会

平成27年1月

理科では、科学的な思考力・表現力の育成を図る観点から、生徒が目的意識をもって観察・実験を主体的に行い、その結果を分析して解釈するなどの科学的探究の能力の育成が重視されています。

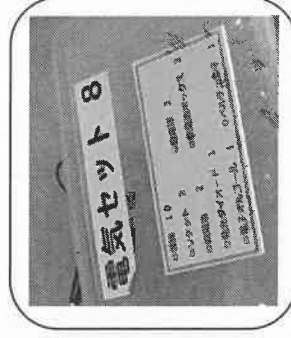
根拠をもった予想、話し合い活動を通じた思考の深化、仮説を検証する実験については、冊子「学力分析と指導の手立て」に掲載予定です。

これらの前提には観察・実験の充実が欠かせません。ここでは、限られた時間の中で円滑に実験を行うための準備について、簡単にできる実践例を紹介します。

身近なものを使って理科室を整頓すると、実験をスムーズに行えるようになります。

◇シール容器やフィルムケース等を使って

電流の実験で使用する導線などを、一定数シール容器 (右の写真は 20.3cm×15cm×7cm) に入れ、班の数+1用意しておく、電流の單元だけでなく、他の單元で使用する際も便利です。またフタの上内容物を明記しておく、片付けの時の確認にも便利です。

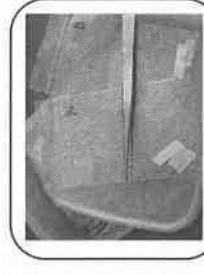


最近は少なくなりましたが、まちの写真屋さんをお願いして、フィルムケースを分けてもらう方法もあります。



実験に使う薬品を、フィルムケース等に小分けで準備しておく、便利です。シール容器に物質ごとに入れておく (18cm×9.8cm×7cm ならば12個入りです)、棚の中に重ねて収納できます。

フィルムケースに化学式を書いておく、生徒が元素記号に触れるチャンスが増えます。



BTB溶液等は小分けにして、スクリュウキャップ容器等にまとめておく、便利です。



チャック付き透明袋も、薬品や薬包紙、リトマス紙の小分けなどに使えます。500ml 炭酸飲料のペットボトルは、質量保存の法則の実験容器としてはわかりやすく、水を入れておもりに、下半分を切って肺モデル実験に、等々、いろいろと便利です。



川越市マスコットキャラクター ときも

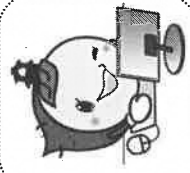
小江戸川越

寺子屋タイムズ (中学校英語版①)

川越市教育委員会・川越市学力向上研究委員会

平成27年 2月

知っ得! 音読指導



【お悩み】 (1)「音読の声が小さいんですけど... 声を大きく出させるにはどうしたらいいですか？」
(2)「毎回授業で、生徒が音読指導に飽きてしまっているようです。どうしたらいいですか？」

【考えられる原因】 声が出ない理由として主に2つ考えられます。

- (1) 読めない単語があり、声を出して読む自信がないのではありませんか？
- (2) 音読練習がいつも同じで、マンネリ化していませんか？

【解決策】

(1) 生徒に自信がない場合

- ① イチゴ読み…単語を一語ずつリピートする。
- ② チャンク読み…文を意味のまとまりごとにかたまりにして読む。
- ③ センテンス読み…一文ずつリピートする。
- ④ バックワード読み…文末の単語から一語ずつ追加してリピートしていく。

(2) いつもの音読練習に飽きている場合

- ① 一文交代読み…奇数行を教師が読み、偶数行を生徒が読む。
- ② 男女交代読み…最初は男子、次は女子から始める。
- ③ 一人一文読み…一文交代で全員が読む。
- ④ サバイバル読み…一人ずつ、間違えまで読む。
- ⑤ タケノコ読み…教師がゆっくり読んでいく。自分の読みたい文が来たら立って読む。
- ⑥ ダウト読み…教師がわざと間違えて読むが生徒はそれにつられずに読む。
- ⑦ 同時読み…モデルと同じ速さで読む。
- ⑧ 翻訳読み…教師が日本語を言う。それをただちに英語で言う。
- ⑨ 四方八方読み…回数に応じて前後左右を向いて読む。
- ⑩ パートナーチェンジ読み…相手を次々と変えて練習する。
- ⑪ 制限時間読み…制限時間内に読めるようにひたすら速く読む。
- ⑫ 状況設定読み…図書館での会話、地下鉄駅構内、など場の設定をする。
- ⑬ ペア探しの旅…1回読むごとに相手ペアを探して読む。聞いた人のサインをもらう。
- ⑭ グループ内同時読み…グループで声を合わせて読む。
- ⑮ 誘い読み…途中で教師が読み、続きを生徒に読ませる。

音読させるとき、生徒が英文の内容

理解ができてきていることが前提です。





川越市エデュケーションセンター ときも

小江戸川越

寺子屋タイムズ (学級経営版①)

川越市教育委員会・川越市学力向上研究委員会 平成26年10月

前向きな姿勢で授業に取り組みませましょう。

授業の開始前に学習用具を机の上に準備します！

準備タイム (学習用具の準備をする時間) を設けます。

- 前の授業の終わりが、授業の開始前に設けます。
- 授業開始時に、学習用具の準備について、教師の見届け・確認をします。

★授業に取り組み心が
構えができます。
★準備が整っている
と、気持ちよく学習
に取り組みます。

学習用具・身の回りの整理整頓をします！

★自分にも周り
にも環境の快適
さを感じさせま
す。
★学習の課題に
対して集中でき
ます。

整頓タイム (机の上や周り・中の整理整頓をする時間) を
設けます。

- 授業の始めや用具の使用後に、短い時間で区切って行い
ます。
- 座席の乱れやごみなどがあれば、その場で直させます。
最後に、教師の見届け・確認をします。

提出物の期限や授業開始時刻を守ります！

提出物や提出期限は、はっきりわかるようにしておき
ます。
**授業の始め終わりのあいさつは、開始 (終了) 時刻を
守り、正しい姿勢をとらせ、教師の目を見て行うように
させます。**

- 忘れ物をしない工夫について考えさせたり、忘れ物ゼロ
キャンペーンを行ったりするなど、提出物を提出する、
提出期限を守るといった意識を高めます。
- 教師や当番の児童生徒の声かけ・見届けを確実にします。

★気持ちの切り替
えができ、けじめ
がつけます。
★時間や期限を守
ることは、自分や
相手を大切にす
ることになります。

これらの態度の育成は、学力向上の基盤となります。

一人一人に確実に身につけさせるために、必ず教師が見届けましょう。

小学校外国語活動研究委員会

I 研究の概要

1 目的

外国語活動の教材が「英語ノート」から「Hi, friends!」に変わったことを受け、教材を生かした授業の充実・推進を図るため、「Hi, friends!」の指導案例を作成し、活用を図ることで授業の工夫改善の一助とする。

2 研究の経緯

川越市では、平成21年度の移行期から、第5・6学年で週1時間英語活動を実施してきた。平成20年度には本委員会を立ち上げ、「英語ノート（試作版）」に準拠した年間指導計画と1単位時間の指導案を作成し、当初の英語活動の円滑な導入を図った。

平成21年度は、試作版の検討を重ね、「『英語ノート』を活用した外国語（英語）活動年間指導計画及び1単位時間の指導案綴り1・2」を作成し、各小・中学校に配布し、授業に活用できるようにした。

平成22年度は、次年度から全面实施となる外国語（英語）活動を踏まえ、その評価について検討し、評価の観点と評価規準を作成した。各小学校に配布し、活用を図った。また、平成23年度に過去2年間の移行期間に外国語（英語）活動に取り組んだ児童・生徒を対象とした意識調査を実施するために、調査内容を検討し予備調査を行った。予備調査では調査対象となった母集団が小さかったが、外国語（英語）活動や英語科授業に対する児童・生徒の大きかな特徴を捉えることができた。

平成23年度は、調査対象を拡大し、結果を細かく分析し、外国語（英語）活動の成果と課題や中学校英語科授業との連携について研究を行った。

平成24年度から、「Hi, friends!」の指導案例等の研究を始め、活動例や授業で使えるワークシート等を提示した。

II 研究の取組

1 本年度の研究内容

平成26年度は、外国語活動の充実・推進を図るため外国語活動教材「Hi, friends!」の指導案例を提示する。また、英語指導助手とのチームワークを充実させるため、昨年度作成した指導案を英語に直したのもも作成した。（詳細は「小学校外国語活動研究委員会研究冊子」に掲載）

2 研究実績

期 日	場 所	主 な 内 容
平成26年 7月 8日 (火)	川越市立教育センター	○依頼書交付 ○趣旨説明 ○研究の方向性の決定
9月 9日 (火)	川越市立教育センター	○研究部の決定 ○部会ごとの協議
10月14日 (火)	川越市立教育センター	○部会ごとの協議
11月12日 (水)	川越市立教育センター	○部会ごとの協議
平成27年 1月13日 (火)	川越市立教育センター	○原稿の最終確認

第5学年外国語活動指導案

1 教材名 Lesson 7 What's this? ①

<45分>

2 目標 様々な物の言い方から、言葉の面白さに気付くとともに、身の回りの物を表す語に慣れ親しむ。

3 評価 外来語と英語の発音の違いや日本語と英語の類似点から、言葉の面白さに気付いている。
【言語や文化に関する気付き】

4 準備 教師用絵カード（身の回りの様々な物）、Hi, friends! CD または デジタル教材

5 展開 (※使用表現：What's this?/It's ~.)

時間	活動内容	担任 (HRT)	AET	教材教具
3分	1 英語で挨拶をしよう	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体調にあわせた答えができるようにさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>A: Hello, how are you? S: I'm fine/ happy/ hungry/ sleepy.</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 全体及び個別に挨拶をする。 	教師用絵カード (表情)
20分	2 What's this?クイズに答えよう	<ul style="list-style-type: none"> 児童から答えを引き出しながら、その物の英語での言い方を紹介し、外来語との音の違いに気付かせる。 例：globe (地球儀) の発音は日本語の野球グローブの発音(発音)に近く、glove (野球グローブ) の実際の発音とは違う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>triangle, fish, recorder, shoe, notebook, eraser, ruler, beaker, glove, bird, textbook (三角定規) (黒板消し/ 消しゴム) (野球グローブ) piano, mat, bat, cap, map, triangle, apple, ruler, globe, tomato, bat, frying pan, cup, (こうもり) (トライアングル) (地球儀) (野球バット) microscope, eggplant, brush, flower.</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ triangle, eraser, bat など、同じ発音で違うものを表す語があることに気付かせ、日本語と英語の類似点から言葉の面白さにも気づかせる。 	CD 教師用絵カード (様々な物) デジタル教材
10分	3 ポインティングゲームをしよう 【Let's Play】	<ul style="list-style-type: none"> 物の一部の絵を見て、それが何かを答え、英語の言い方を発音する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ HRTとAETがやり方をデモンストレーションで示す。 ・ AETは、p.28,29の学校生活に関連する様々な物の言い方を何度も発音する。 ・ 指し示すことだけに気を取られずに、しっかりと発音させる。 ・ 誌面の絵を見て、好きな物やそこにある物の数などを尋ねる。Do you like ~?/How many ~? ・ クラスの実態に応じて、ペアで1つの誌面を見て、AETの発音した物を2人で指さし、速くさした方が勝ちというルールにしてもよい。 	Hi, friends! p.28,29 CD 教師用絵カード (様々な物) デジタル教材
8分	4 チャンツをしよう 【Let's Chant】 ♪ What's this? ♪	<ul style="list-style-type: none"> ・ チャンツに合わせて Hi, friends! p.30の絵の中の mat, cat, cap を指しながら一緒に言う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵カードを指し示しながら、聞かせたり言わせたりする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>What's this? ♪♪ What's this? What's this? ♪♪ It's a mat. It's a cat. It's a cap.</p> </div>	教師用絵カード (様々な物) Hi, friends! p.30 CD または デジタル教材
4分	5 振り返りと挨拶をしよう Thank you very much, ~sensei. See you.		<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習の感想を聞く。 ・ 大きな声で挨拶ができるように支援する。 	振り返りカード

第6学年外国語活動指導案

Lesson 7 We are good friends.①

＜45分＞

1 教材名
2 目標
3 評価
4 準備
5 展開

世界の様々な物語に興味をもつ。
世界には様々な物語があることに気付いている。【言語や文化に関する気づき】

教師用絵カード、Hi, friends! CDまたはデジタル教材

We are strong and brave. / We are good friends.. / A Kibidango please.
Let's go to Onigashima. / Take care.)

時間	活動内容	担任 (HRT)	AET	教材教具
2分	1 英語で挨拶をしよう	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体調にあわせた答えができるようにさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>A: Hello, how are you? A: What day is it? A: What's the date today? A: How's the weather?</p> <p>S: I'm fine / happy. etc. S: It's (Monday). S: It's (November 1st). S: It's (sunny).</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 全体及び個別に挨拶をする。 	教師用絵カード (表情)
5分	2 英語で言えるものを発表しよう	<ul style="list-style-type: none"> 誌面 p.26,27 の絵を見て、英語で言えるものを発表させる。 bear, bird, tree, red 等 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の発表に合わせて教師用絵カードを貼る。 	教師用絵カード (様々な物語)
5分	3 何の物語か考えよう <ul style="list-style-type: none"> どんな人物や動物がいるか探しながら、それらがどんな物語の登場人物か考えて発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表は、日本語でも良いことを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ヒントとして、物語の一場面のセリフを英語で発したりする。絵カードを示したりする。 	教師用絵カード (様々な物語)
20分	4 桃太郎の物語を英語で聞こう <ul style="list-style-type: none"> (1回目：物語全体) 誌面を閉じ、場面絵を見ながら物語全体を聞く。 (2回目：繰り返される単語) 誌面を閉じ、場面絵を見ながら、何度も聞こえる単語を意識して物語を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> AET の話に合わせて、場面絵カードを見せながら聞かせる。 どんな単語が何度も聞こえるか意識して聞くように指示する。 strong, brave, friend 	<ul style="list-style-type: none"> 誌面の「桃太郎」を表情豊かに読み聞かせる。 何度も出てくる単語には、同じ動作をつけるなどして印象付ける。 	教師用絵カード (桃太郎場面絵) Hi, friends! p.26～36
10分	5 場面あてゲームをする <ul style="list-style-type: none"> セリフを聞いてどのページかどの場面にあるものかを当てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 誌面 p.28～36 の絵の中から場面あてゲームをする。 分かち合える。い単語について推測させる。推測するだけ絵や動作から、推測させるが、brave 等、難しい単語については日本語で説明する。 一部の児童に発表が偏らないよう、交代で発表させるなど実態に合わせて工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの活動で慣れ親しんだ単語を取り上げて行って慣れてきたら新しい単語で行う。 	教師用絵カード (桃太郎場面絵)
3分	6 振り返りと挨拶をしよう <ul style="list-style-type: none"> 本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入する。 あいさつをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>Thank you very much, ～sensei. See you.</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 児童の英語を使おうとする態度などをほめる。 大きな声で挨拶ができるように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体に挨拶をする。 	振り返りカード

"Hi, friends! 1" English Activity Teaching Plan

1 Topic: Lesson 2 I'm happy.②

<45分>

2 Goal: Notice the importance of expressions and gestures, and there are many gestures in the world.

3 Evaluate: Notice the importance of expressions and gestures, and there are many gestures in the world.

4 Materials: Picture cards(expressions), Hi, friends! CD or digital materials

5 Procedure: (※Expressions: Hello. How are you? I'm good / fine / happy / hungry / sleepy / tired / sad.)

Time	Activities	HRT(Homeroom Teacher)	AET	Notes
3 min	1 Let's greet in English	<ul style="list-style-type: none"> Let students express according to their feeling. <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> A: Hello, how are you? B: I'm fine/ happy/ hungry/ sleepy. </div>	<ul style="list-style-type: none"> Greet the students as a class and individually. 	Picture cards (expressions)
10 min	2 Let's greet in English with the gesture •Use the gesture which shows today's feeling.	<ul style="list-style-type: none"> Show 6 pictures and let them answer the questions. 	<ul style="list-style-type: none"> Greet to the class and to individual. Use the expressions like "Good", "Are you OK?" or "Me, too." 	Picture cards (expressions)
8 min	3 Let's sing a song. 【Let's Sing】 ♪ Hello song ♪	<ul style="list-style-type: none"> Have students enjoy singing with the gesture. If they get used to it, change the word instead of good. Walk around the classroom. If the music stops, greet with a person close to you. 	<ul style="list-style-type: none"> Enjoy singing using the gesture. 	Hi, friends! p.8 CD or digital materials
10 min	4 Think what are they doing. 【Let's Play】 • Listen to the CD and guess what each gesture shows. • Do the gestures.	<ul style="list-style-type: none"> Check what the pictures below are showing. Have students notice the differences of gestures between Japan and other countries. 	<ul style="list-style-type: none"> Repeat the gestures after the CD. (Good luck! Come here. I don't know. Good!) 	Hi, friends! p.9 CD or digital materials
10 min	5 Let's greet with friends with the gesture. 【Activity】 • Walk around the classroom and greet with friends. • Listen to the friends' feelings and write the name on the chart.	<ul style="list-style-type: none"> Demonstrate how to answer the questions. Have students talk with many friends. Introduce the students who communicate well (gestures or eye contact). <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> A: Hello. B: Hello. A: How are you? B: I'm hungry/ happy/ sleepy/ fine/ tired/ sad/ great. A: Hungry/ Happy/ Sleepy/ Fine/ Tired/ Sad/ Great? B: OK. Goodbye. A: Goodbye. </div>	<ul style="list-style-type: none"> Demonstrate with HRT. Introduce the words(tired, sad) and the new word(great). Communicate with students actively. 	Hi, friends! p.9 CD or digital materials
4 min	6 Review and greet <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> Thank you very much, ~sensei. See you. </div>	<ul style="list-style-type: none"> Ask students how today's lesson was. Tell them to greet loudly. 	<ul style="list-style-type: none"> Greet with the students. 	Review cards

"Hi, friends! 2" English Activity Teaching Plan

<45分>

- 1 Topic: Lesson 3 I can swim. ③
- 2 Goal: Become familiar with expressions of asking and answering what one can do.
- 3 Evaluation: The students are asking and answering what one can do.
- 4 Materials: Hi, friends! CD or digital materials
- 5 Procedure: (※Expression: I can ~. / I can't ~. / Can you ~? / Yes, I can. / No, I can't.)

時間	Activities	(HRT) homeroom teacher	AET	Notes
3 min	1 Let's greet in English. <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> A: Hello, how are you? A: What day is it? A: What's the date today? A: How's the weather today? </div>	<ul style="list-style-type: none"> Have the students greet according to how they're feeling. 	<ul style="list-style-type: none"> Greet the students as a class and individually. 	picture cards (expression)
5 min	2 Let's Chant. ♪ Can you swim? ♪ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> Can you play soccer? Can you play baseball? Can you play the piano? Ummm..., but I can cook and swim! </div>	<ul style="list-style-type: none"> Teachers show how to do this with gestures. 		Hi, friends! p.12 CD or digital materials
10 min	3 Let's interview and get a signature. 【Activity ②】 • Ask your friends if they can do the activities on p.12 of the textbook, then ask those who can do the activities to write their names in the space below the illustration.	<ul style="list-style-type: none"> Have the student start with "Hi," and end with "Good bye". Have the students circle 5 activities they can do before the interview. 	<ul style="list-style-type: none"> Walk around the classroom and do interviews. 	Hi, friends! p.12
7 min	4 Let's listen what I can do. 【Activity ③】 • Listen to the CD "This is ME." and catch what "I" can do.	<ul style="list-style-type: none"> Have the students make groups and try to catch what "I" can do. If the students can't catch what the AET said, teachers say with gestures or say in other words. 	<ul style="list-style-type: none"> If the students can't catch words, AET repeats the words slowly. 	CD or digital materials
15 min	5 Let's do "Who am I?" • The leader acts as one of the students and introduce what she / he can do according to the result. Students guess who she / he is.	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ① Students choose 2 activities which they can do and choose 1 activity they can't do. ② Teachers gather their textbooks and choose some of them. ③ Students asks AET by using, "Can you ~?". AET acts one of them and answer, "Yes, I can." / "No, I can't." ④ Students guess who she / he is. </div>		Hi, friends! p.12
5 min	6 Review and greet <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> Thank you very much, ~ sensei. See you. </div>	<ul style="list-style-type: none"> Ask about the lesson. Encourage the students to close cheerfully. 	<ul style="list-style-type: none"> Greet with the students. 	Review card